

滋賀県立障害者福祉センター

令和3年度

年報

設置主体 滋 賀 県

指定管理者（公財）滋賀県身体障害者福祉協会

はじめに

滋賀県立障害者福祉センターは、平成2年に「心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、教養の向上、健康の増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る」ことを目的として設置され、当協会が指定管理者として管理運営を行っているところです。

令和3年度は、第四期指定管理期間(令和3年度～令和7年度)の初年度であり、「利用者一人ひとりに寄り添い、ともに成長するセンター」を目指し、経営方針と経営目標の下、安全安心を基本に、質の高いサービスの提供に努めてまいりました。

しかし、令和3年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言もあり、たびたびスポーツ施設を閉所させていただく事態になりました。また、感染症対策のために検温、手指消毒、体調確認をはじめとする利用の際のお願いや利用時間、利用人数などに制限を設けさせていただき、利用者の皆様には大変な御不便をおかけする状態が続いています。

このような中ではありますが、令和4年1月には開所からの延べ利用者数200万人を達成しました。改めてご利用いただいた皆様にお礼申し上げますとともに、日々の運営には、ボランティアの皆様をはじめ、関係団体や関係機関の方々には温かい御支援と御協力を賜わり、誠にありがとうございました。

今後も新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止策を取りながら、利用者の皆様が安全安心に御利用いただけるよう努めてまいりますので、関係者の皆様の変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、令和3年度の事業概要を年報としてまとめたものです。

御高覧いただき、御教示いただければ幸いに存じます。

令和4年7月

指定管理者 (公財) 滋賀県身体障害者福祉協会

滋賀県立障害者福祉センター所長

目 次

I 事業の概要	1
1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	1
2. 行事・交流・大会事業	3
3. スポーツ・文化教室	8
4. 更生相談事業	26
5. 養成・研修事業	29
6. 共催事業	31
7. 自主事業	32
8. お客様アンケート	33
9. 広報・啓発	35
10. 会議等	36
11. 研修状況等	37
II クラブ活動	38
III 利用状況	39
IV 利用者と支える人の声	45
V 施設の概要	47
VI 組 織	52

I 事業の概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、県の「コロナとのつきあい方滋賀プラン」を元に必要と思われる様々な対策を実施した上で、障害のある人を対象とした行事、スポーツ教室、文化教室、更生相談等、社会参加を進める等、活動の場を提供した。

1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

施設の閉所・閉鎖等

①全館臨時閉所

- ・令和3年8月27日(金)～9月30日(木) (滋賀県に「緊急事態宣言」発令)
- ・令和4年1月18日(火)～1月20日(木) (職員の発熱:PCR検査結果は陰性)

②運動施設のみ臨時閉鎖

- ・令和4年2月10日(木)～3月13日(日)※3月1日(火)～延長(県内における感染状況の悪化)

③個人利用中止(予約されていた団体のみ利用可)

- ・令和3年8月8日(日)～8月26日(木) (滋賀県に「まん延防止等重点措置」発令)

事業の中止

【中止した事業】

事業名		開催予定だった日	予定回数
行事・交流	夏休みわくわく体験広場	令和3年8月9日(月・祝)	1
	レッツイベント!	令和3年9月12日(日)	1
	チャレスポ	令和4年2月23日(水・祝)	1
スポーツ入門教室	リズムでダンス	令和4年1月15日(土)～3月19日(土)	6
ステップアップ	スイム・スイム・スイム	令和4年1月16日(日)～3月20日(日)	6
健康維持増進	ラジオ体操	令和3年4月2日(金)～令和4年3月31日(木)	
バックアップ	琵琶湖一周、日本縦断に挑戦(授与式)	令和4年2月11日(金・祝)	1
文化・教養	ガーデニング教室	令和3年5月15日(土)	1
	手作り体験教室(ハーバリウム)	令和3年6月5日(土)	1
共催事業	パーキンソン病リハビリ大会	令和4年3月21日(月・祝) (当初予定の令和3年9月5日(日)を変更)	1

10事業 計19回

※回数を減らすなどして開催した事業は9ページ以降に記載

利用時間 9時30分～20時30分

- ・消毒時間確保のため利用時間を変更

①午後と夜間の部は30分短縮

②午前の部プールのみ10時からの30分短縮

午前の部 9時30分～12時00分 午後の部 13時00分～16時00分

夜間の部 17時30分～20時00分

※令和4年1月からはプールのみ通常の営業時間に変更した。

入館時の対策

- ・ 出入口を正面玄関のみ。
- ・ 入館前の検温、体調チェック(発熱、風邪症状、濃厚接触者等の該当の有無について)手指消毒。
- ・ 受付時に介助者または障害のない人は「情報提供用紙」を提出。
- ・ 団体利用者は、事前に提出済みの団体者名簿に沿って体調等をチェック。

事業実施上の対策

- ・ マスク着用、手指消毒、密接、密着の回避、換気の徹底、道具の専有使用等の感染症対策を講じたうえで開催。
- ・ 各事業の実情に合った有効と考えられる対策を実施。

施設管理上の対策

【三密の回避】

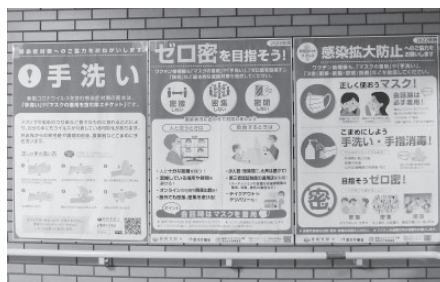
- ・ プールの団体および教室専用時間と個人利用時間を分けて設定
- ・ 施設毎の利用人数の制限
- ・ トレーニング室内の機器の間引きと飛沫防止シート設置
- ・ 館内椅子の間引きおよびキッズスペースの撤去
- ・ 施設のテレビ視聴・図書閲覧の中止
- ・ 更衣室内のシャワー使用禁止

【衛生・消毒に関すること】

- ・ アクリル板の設置
- ・ ハンドドライヤーの使用禁止
- ・ ウォータークーラーの使用禁止
- ・ 貸出物品の制限(消毒できない物)
- ・ 備品等使用後の消毒
- ・ 館内での食事制限

【その他】

- ・ プールカレンダーを作成し、利用可能日を明示
- ・ ポスターによる感染防止啓発
- ・ 利用者の学校や職場等所属先が閉鎖中の場合は利用不可
- ・ 職員の体調管理の徹底(検温後の出勤・食事場所の分散や黙食等)



ポスターによる感染防止啓発



受付にアクリル板の設置

2. 行事・交流・大会事業

オータムスポーツデイ

(1) 期 日 令和3年10月24日(日)

(2) 参加人数等 32人

(3) 目 的

障害のある人とその家族(介助者含む)が、スポーツ、レクスポーツを楽しみ、スポーツへの関心を広げ、センターの利用促進につなげる。

(4) 内 容

卓球・バスケットボール(シュート)

ボッチャ・ボッチャボーリング・ラダーゲッター

(5) 総 評

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、運動施設の閉鎖や事業を中止したため、当初計画にはなかったが、障害区分を問わず「できた!」を感じてもらえるような工夫をして、楽しく体を動かしてもらえるイベントを企画した。

ボッチャコーナーでは、回数を重ねる毎にボールの扱いに慣れ、徐々にコントロールできるようになり、バスケットボール(シュート)コーナーでは、様々な高さのリングにチャレンジしシュートを決めることができた時には笑顔が見られた。

参加者からは「体が動かすことが好きな息子と一緒に体験ができてとても楽しめました」「ボッチャボーリングがまたしたいです」「また、この企画を楽しみにしています」等の感想が寄せられた。



第38 回水泳記録会

(1) 期 日 令和3年10月31日(日)

(2) 参加人数等 121人

(3) 目 的

障害のある人が日々の練習の成果を発揮する場とし、他者との交流を深めるとともに今後の練習への意欲を高める。

(4) 内 容

第1部【水中チャレンジ】25mに挑戦・水中レクリエーション

第2部【記録会】自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ(各25m・50m)

(5) 総 評

第1部では、25m完泳を目指して一生懸命挑戦される姿に、会場から自然と拍手による応援が起こった。水中レクリエーションでは、滑り台や浮島渡り等普段のプールでは体験できない内容を実施した。参加者からは多くの笑顔がみられ、楽しんでもいただくことができた。

第2部では、日々の練習の成果を試す場として参加され、自己記録を更新する等、その成果を存分に発揮される場面が多くあった。また、東京2020パラリンピック競技大会に出場された南井瑛翔選手も参加され、水泳選手育成で共に泳いでいた仲間と久しぶりに再会し交流をされた。参加者からは、「予想以上に泳ぐことができ、水泳の楽しさを知ることができた。今後も今以上に泳げるように、また、楽しみながら泳いでいきたい」「とても良い経験になった。自己ベストを更新できた!」等の感想が寄せられた。



ボッチャ交流大会

(1) 期 日 令和3年11月23日(火・祝)

(2) 参加人数等 40チーム 計153人

(3) 目 的

ボッチャ交流大会を開催することで、各地域や団体の会員が練習のため日々集う機会を増やし、会員同士の交流促進と健康の増進を図り、地域団体の活性化を促進する。

(4) 内 容

全8コート。各コート5チームのリーグ戦。各試合2エンド。各エンドの持ち時間5分。

(5) 参加チーム・人数

大津市	10人(4チーム)	彦根市	8人(2チーム)	長浜市	6人(2チーム)
近江八幡市	10人(4チーム)	草津市	20人(6チーム)	守山市	6人(2チーム)
栗東市	6人(2チーム)	湖南市	8人(2チーム)	甲賀市	20人(6チーム)
東近江市	10人(4チーム)	高島市	9人(3チーム)	多賀町	2人(1チーム)
青壮年部	8人(2チーム)				

(6) 総 評

昨年のアンケートでいただいた意見を基に、新型コロナウイルス感染症対策を取ったうえで多くの方が参加でき、なおかつスムーズな進行ができるよう考えて実施した。多くの参加者からは、「久しぶりに皆が集えて楽しい時間を過ごすことができた」という感想をいただいた。



障害者週間啓発イベント(清掃)

(1) 期 日 令和3年11月25日(木)

(2) 参加人数等 77人

(3) 目 的

障害のある人が清掃活動を通して障害者福祉についての関心と理解を深めるためのきっかけとし、広く社会にアピールするとともに、障害のある人自らも社会貢献活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

(4) 内 容

福祉ゾーン一帯の落ち葉の清掃活動

(5) 協 力

福祉ゾーンねっとわーく、登録ボランティア

(6) 総 評

今年も多くの方に参加いただき、歩道一面の落ち葉を清掃した。1時間程度の活動できれいな歩道へと様変わりし、落ち葉で滑る危険もなくなった。参加者は積極的に活動され、竹ぼうきで掃いて落ち葉を集める人、回収してゴミ袋に入れる人、一杯になったゴミ袋を運ぶ人など一人ひとりができることを見つけ協力し合う姿が見られた。参加者からは「清掃をして気分もすっきりした」「また清掃活動に参加してみたい」等の感想がよせられ、社会貢献活動に積極的に参加する意欲を高める機会とすることができた。



クリスマスイベント

(1) 期 日 令和3年12月19日(日)

(2) 参加人数等 延べ224人

(3) 目 的

障害のある人とその家族(介助者を含む)が、クリスマスの雰囲気を感じ、共有する場を設け、社会参加と共助の一助とする。

(4) 内 容

午前の部 クリスマスオーナメント作り
オリジナルマグネット作り
巨大迷路

午後の部 クリスマスコンサート 玉川ウインドオーケストラ



(5) 総 評

工作体験では、季節を感じられるオーナメントやオリジナル性が魅力のマグネットを家族や介助者の方と相談しながら作成されていた。どちらとも簡単な作業ですることができ、完成した作品を見ながら楽しそうに話されていた。また、午後からのクリスマスコンサートでは、玉川ウインドオーケストラによる迫力ある演奏に、クリスマスソングや誰でも耳にしたことのある曲に合わせ、参加者は体を揺らしたり、配った鈴を鳴らすなどして楽しいひとときを過ごしていただいた。「1日を通して飽きることなく楽しめた」「コンサートは、大人も子どもも知っている曲と一緒に楽しめた」等の声をいただいた。

夏休みわくわく体験広場(中止)

(1) 開催予定期日 令和3年8月9日(月・祝)

(2) 目 的

障害のある人とその家族(介助者含む)が、様々な体験を通して学び・楽しみ、夏休みの思い出となるようにする。

(3) 協力(予定)

滋賀県金融広報委員会、センター登録ボランティア

(4) 内容(予定)

模擬紙幣体験、貯金箱作り、おかねパネルクイズ
お化け屋敷、スポーツ体験広場、缶バッジ作り
フォトスポット、和太鼓体験、和太鼓演奏 等

(5) 総 評

今回は、コロナ禍でも開催できる様に、規模や内容を再三検討し進めてきたが、感染症が拡大し、残念ながら開催日の直前に中止とした。準備していた内容は、『滋賀県金融広報委員会』の協力を得て、お金を使用する体験やお金について学んでもらうコーナーのほか、『近江和太鼓団 巴~uzumaki~』による和太鼓の体験と演奏、絵本の世界を題材にしたお化け屋敷やレクリエーションボッチャ、バスケットボール等が体験できるスポーツ体験広場、自分が競技しているように映すことができるスポーツフォトスポット等のコーナーを設ける等様々な体験をしていただく予定をしていた。

滋賀県立障害者福祉センター
夏休みわくわく体験広場

開催日: 8月9日(月・祝)
開催時間: 10:30~12:30 / 13:30~15:00
(12:30~13:30は昼休憩) ※雨天では中止となります
対 象: 障害のある人とその家族(介助者を含む)

貯金箱作り / おかねパネルクイズ / 模擬紙幣(ぼると)利用体験
【10:30~12:30 / 13:30~14:30】
協力: 滋賀県金融広報委員会

お化け屋敷 / フォトスポット / 缶バッジ
【10:30~12:30 / 13:30~14:30】

スポーツ体験広場
【10:30~12:30】

和太鼓演奏
【14:30~15:00】

和太鼓体験
【13:30~14:30】

申込不要
先着順

申込先: 滋賀県立障害者福祉センター
〒525-8501 滋賀県彦根市彦根1-20-1
TEL: 077-954-7727 FAX: 077-954-7341

お問い合わせ: 077-954-7727
Web: <http://www.shiga-shimin.jp/shimin/kyosei/>

※開催は天候や感染症の状況により中止となる場合があります。ご了承ください。

レッツイベント (中止)

(1) 開催予定期日 令和3年9月12日(日)

(2) 目的

障害のある人が交流をする中で、相互の障害について理解や認識を深め、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

(3) 協力(予定)

(福)びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津
センター登録ボランティア

(4) 内容(予定)

- ・車椅子に乗る障害の重い方も、跳んで弾んで・乗って進んでワクワク体験！
予約制：スパイダー・サイバーホイール
移動機器：レースランナー・アムトライク・ベビーロコ等
- ・工作体験！作ってみよう！
午前・午後／各先着30名：LEDライトを使ってオリジナルランプ作り
- ・楽しい音楽やリズムに合わせてカラダを動かそう！
リトミック - メロディーズ -
・音楽の力で心もカラダも元気になっちゃう！
ライブ - musigrou -

(5) 総 評

ご家族も一緒に楽しんでいただけるよう、内容に工夫を重ねていきたい。



チャレスポ！ (中止)

(1) 開催予定期日 令和4年2月23日(水・祝)

(2) 目的

障害のある人もない人もイベントに参加し、パラアスリートと交流する中で、パラスポーツを見る、体験することでスポーツの楽しさを実感する。

(3) 内容(予定)

パラスポーツ体験(車いすバスケットボール)
パラリンピック報告会(セレモニー)

(4) 総 評

パラスポーツ体験として、車いすバスケットボールのデモンストレーションおよび体験指導を滋賀県の車いすバスケットボールチームのLAKESHIGAバスケットボールクラブに依頼し、実際の車いすバスケットボール試合の様子などを解説しながら参加者に見てもらう予定をしていた。

また、今年度東京2020パラリンピック競技大会が開催されたことを受けて、滋賀県ゆかりのパラリンピアンにご出席いただき、『東京パラリンピック報告会(セレモニー)』と題し、パラリンピックでのエピソードやそれまでの思い、今後についてなどをインタビュー形式でお話いただく予定をしていた。

なお、館内・アリーナ内には京都新聞社と中日新聞社から提供いただいた滋賀県ゆかりの選手の東京パラリンピックでの活躍の写真を展示する予定もしていた。



東京2020パラリンピック競技大会への取り組み

当センターでは、東京2020パラリンピック競技大会に出場した滋賀県ゆかりの選手にエールを送り、県内の障害者スポーツの機運を盛り上げるため以下のことを実施した。

- (1) 滋賀県ゆかりのパラリンピック選手の競技速報を館内に掲示
- (2) 滋賀県ゆかりのパラリンピック選手12人のパネル※1と当センターで練習している県外の選手1人のパネルを館内に展示
 - ・当センターに来所された選手には、サインやメッセージをパネルに書いていただいた。
 - ・メダリストが報告のため来所された際に花束を贈呈。
- (3) メダリストのパネル※2や選手より贈呈いただいた記念品を館内に展示
- (4) DVDを作成
 - ・「チャレスポ！」のセレモニーに欠席予定の選手で、当センターへ報告に来所された3選手(木村選手・宇田選手・宮路選手)へのインタビューのDVDを作成。(チャレスポ！のセレモニーで流す予定をしていた)

※1、2 滋賀県作成パネルを譲り受けた。



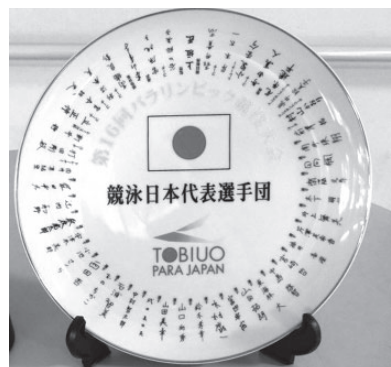
メダリストのパネル展示：多目的ホール



木村選手・宇田選手 来所



パネル展示：廊下



贈呈いただいた記念品：多目的ホール

パラリンピックの成績

競技	選手名	出場種目	順位
トライアスロン	宇田 秀生 選手 (運動機能障害)	PTS4	銀メダル
競 泳	木村 敬一 選手 (視覚障害)	200 m個人メドレー SM11	5 位
		100 m平泳ぎ SB11	銀メダル
		100 mバタフライ S11	金メダル
	南井 瑛翔 選手 (運動機能障害)	100 m自由形 S10	17 位
		100 mバタフライ S10	10 位
	福井 香澄 選手 (知的障害)	男子4 × 34 ポイントメドレーリレー	8 位 ※日本新記録
		100 m背泳ぎ S 14	7 位
陸 上	藤井 由美子 選手 (視覚障害)	混合4 × 100 m S14 フリーリレー	4 位 ※アジア新記録
		100 mバタフライ S14	12 位
馬 術	宮路 満英 選手	200 m個人メドレー SM14	8 位
		混合4 × 100 m S14 フリーリレー	4 位 ※アジア新記録
車いす バスケットボール (女子)	清水 千浪 選手 北田 千尋 選手 土田 真由美 選手 柳本 あまね選手	マラソン T12	5 位
		個人グレードII	7 位 ※フリースタイル出場決定
シットイング バレーボール (男子)	田中 浩二 選手	フリースタイルグレードII	8 位
		団体グレードII	15 位
シットイング バレーボール (女子)	田中 ゆかり選手	準々決勝 日本 v s オランダ 敗退 5・6位決定戦 日本 v s カナダ 敗退	6 位
		7・8位決定戦 日本 v s 中国 敗退	8 位
シットイング バレーボール (女子)	田中 ゆかり選手	7・8位決定戦 日本 v s ルワンダ 敗退	8 位

3. スポーツ・文化教室

スポーツ・文化教室開催状況

教室名		対象者	期 間	曜日	回数	時間帯	定員	延受講者数
スポーツ 入門教室	グラウンドゴルフ定例会	身体障害者・精神障害者・障害のない人	5/21～11/19	金	3	13:30～15:00	15人程度	51人
	アクアビクス教室	障害のある人・障害のない人	4/24～12/25	土	7	10:30～11:30	20人程度	85人
	チャレンジボッチャ教室	障害のある人・障害のない人	4/16～12/17	金	4	13:30～15:00	15人程度	43人
	障害者スポーツ指導支援	障害者団体等	通年	—	27	—	—	464人
健康維持増進	※大人の体の使い方&スイム	障害のある人・障害のない人(20歳以上)	6/18～12/17	金	5	10:00～11:45	15人程度	50人
重度障害者 対象教室	水中らくらくアドバイス	重度の肢体障害者とその介助者	通年	—	7	—	—	16人
ジュニア 対象教室	親子水泳	知的障害のある小学生(1～3年生)とその親	7/3～8/7	土	4	10:00～11:00	10組	64人
	※幼児体の使い方&スイム	知的発達障害のある4.5歳児とその親(身体除く)	7/4～8/8	日	5	10:00～11:00	6組	61人
ステップ アップ教室	卓球ラリートタイム	障害のある人・障害のない人	7/16～3/18	火	7	13:30～15:00	12人程度	92人
	STTラリートタイム	視覚障害者	4/15～12/16	木	7	13:30～15:00	13人程度	87人
	水泳選手育成	小学校6年生以上の障害のある人で、競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/9～1/7	金	23	18:30～20:30	15人程度	713人
	バスケットボール選手育成	草津養護学校区の知的・発達障害のある高校生以上と高等養護学校でバスケットを行っていた人で、競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/21～12/25	水・土日・祝	18	水:15:00～16:30 土・日・祝:10:00～12:00 1月～3月:13:00～15:00	20人程度	174人
個別サポート	水泳個別アドバイス	障害のある人	通年	—	36	—	1日最大4人	36人
測定・評価	体力測定・トレーニングアドバイス	身体障害者・精神障害者	10/27	水	1	13:30～15:30	20人	12人
	体組成測定会	障害のある人・障害のない人	4/24・10/16	日	2	13:30～16:00	30人程度	29人
バックアップ	琵琶湖一周に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年	—	—	—	—	542人
	日本縦断に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年	—	—	—	—	14人
	タイムトライアル	障害のある人	4/4・5/2・12/5	土・日	3	17:30～19:00	20人程度	3人
地域支援	体の使い方キッズ(湖北・湖西)	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある4歳～小学2年生(身体除く)とその親	11/21・12/5	日	2	9:30～10:30	10組	30人
	体の使い方ジュニア(湖北・湖西)	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある小学(3～6)年生(身体除く)				11:00～12:00	12人	34人
	短期水泳(湖北・湖東)	長浜・甲良養護学校区の身体・知的・発達障害のある小学生とその親	11/20・12/18	土	2	9:15～10:15	15組	61人
		長浜・甲良養護学校区の身体・知的・発達障害のある人(中学生以上)				10:30～11:30	20人	48人
	短期水泳(湖西)	新旭養護学校区の知的障害児(小学生)とその親	11/13・12/4・1/8	土	3	13:30～15:00	6組	30人
		新旭養護学校区の知的障害者(中学生以上)					12人	30人
	障害者スポーツ体験指導事業	障害のある団体等	通年	—	9	—	—	135人
障害者文化 教養向上事業	茶道教室①	知的障害者(中学生以上)	10/2～1/8	土	4	13:30～14:40	5人	38人
	茶道教室②	身体障害者・精神障害者(中学生以上)			4	14:50～16:00	5人	27人
	絵画教室 スマイル😊	障害のある人(小学4年生以上)	5/16～11/14	日	6	13:30～15:30	10人	97人
	フラワーアレンジメント教室	障害のある人	10/17～2/6	日	5	10:00～12:00	10人	79人
	※絵手紙教室	障害のある人	10/13・11/10・12/8	水	3	10:00～12:00	10人	33人
	お正月生け花教室	障害のある人	12/25	土	1	10:00～12:00	10人	17人
	※手作り体験教室 (アロマワックスサシェ)	障害のある人	3/13	日	1	10:00～12:00	10人	17人
	将棋と囲碁のつどい	障害のある人・障害のない人	4/25～11/28	日	6	10:00～16:00	15人程度	50人
地域支援	地域文化教室	障害のある人とその介助者	通年	—	4	—	各10人程度	38人

[注]※は令和3年度新たに開催した教室

グラウンドゴルフ定例会

(1) 目的

障害のある人もない人も、グラウンドゴルフを通して楽しく交流を深めるなかで、健康の増進および社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ①6ホールをグループで2ラウンド
- ②毎回スコアを付けて、成績上位者およびホールインワン達成者を発表。
- ③成績は、後日多目的ホールに掲示。
- ④毎回のスコアを基に年間表彰を行う。



(3) 実施回数

3回(予定回数6回 内3回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ51人)

新型コロナウイルス感染症対策とし、各自使うクラブを1本に決め、ボールも1人1個のボールを専有で使用する等の対策を実施して開催した。今年度は、初めて参加される方が多く、たくさんの登録ボランティアにもご協力いただいた。

初めての参加者でも、他の参加者からアドバイスを受ける姿が見られホールインワンが出るとアリーナが拍手でつまれ交流も図れた。

参加者からは、「歩く距離があるので良いリハビリになっている」「ホールインワンを出せると嬉しい」「参加者同士の交流も多く良いリフレッシュになる」等の感想が寄せられた。

アクアビクス

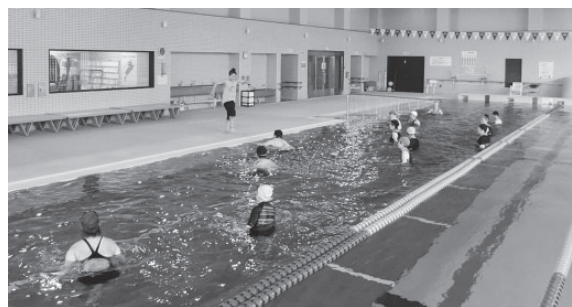
(1) 目的

水中で動くことの楽しさを体験し、体力の維持増進・機能回復と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

リズムに合わせて基本的な動きを中心とした水中運動を行う。

- ①ウォーミングアップ：水中ストレッチ
- ②基本動作：上・下半身、前後左右の移動ステップ等の部分動作
- ③部分動作を組み合わせたのアクアビクス
- ④クールダウン：水中ストレッチ、リラックス



(3) 実施回数

7回(予定回数12回 内5回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ85人)

多くの方に参加していただく人気の高い教室となった。

参加者からは「アクアビクスが毎月の楽しみになっています」「参加者同士・講師との交流があり楽しく参加しています」等の感想が寄せられた。

チャレンジボッチャ

(1) 目的

ボッチャの基本知識およびルール等を理解し、楽しみながら実践することにより、社会参加の促進を図るとともに、裾野を広げる。

(2) 内容

- ①その日の内容に沿ったウォーミングアップ
- ②様々な展開を想定した戦術練習やレクリエーションを取り入れた練習
- ③ゲーム



(3) 実施回数

4回(予定回数6回 内2回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総評 (参加者等延べ43人)

前年度と比べ参加者、ボランティア共に少しずつ新規の方が増えている。

今年度は、ジャックボールを狙うだけでなく、自身が投げるボールの位置取り、相手ボールとの位置関係を把握する練習を行った。ゲームでは練習の内容を踏まえながら実施し、チーム内で戦術について話し合う姿が見られ、戦術の幅を広げることにつながった。

参加者からは、「道具等工夫をした練習をすることができて楽しかった」「ジャックボールを狙うだけではないことが分かってゲームが面白い」等の感想が寄せられた。

障害者スポーツ指導支援

(1) 目的

当センターから遠隔地にある団体およびセンターを定期的に利用する施設等が実施する障害者スポーツやレクリエーション等の事業に対して、当センター指導員が指導を行い、県民の健康維持・増進、余暇の充実を図るための一助とする。

(2) 内容

① 療育教室

- ・湖の子園(草津市) 受講者等延べ150人

実施回数6回(予定回数8回 内2回中止)

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

- ・にこにこ教室(野洲市) 受講者等延べ77人

実施回数2回(予定回数3回 内1回中止)

主に父親との運動遊び、体の使い方と家でも出来る親子運動遊びの紹介

- ・めだかの学校(東近江市) 受講者等延べ61人

実施回数3回(予定回数6回 内3回中止)

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法



② 遠隔地

- ・湖西地域障害者生活支援センターわになろう(高島市) 受講者等延べ60人
実施回数3回(予定回数6回 内3回中止)
体の動かし方と補強運動・レクリエーション・軽スポーツ(ボッチャ)
- ・湖西地域障害者生活支援センターほろん(高島市) 受講者等延べ39人
実施回数4回(予定回数7回 内3回中止)
水泳・水中歩行・水中でのリラクゼーションと軽スポーツ

③ その他

- ・県立精神医療センターディケア
『joy(ジョイ)スポ』(精神障害者) 受講者等延べ77人
実施回数9回(予定回数12回 内3回中止)
基礎的な補強運動と軽スポーツ、体力測定の実施



※中止は新型コロナウイルス感染症の影響

(3) 総 評

- ① 療育教室でのプール活動は、水の特性や体の使い方、水の楽しみ方を一人ひとりに伝えた。また、保護者や保育士には介助の基本姿勢やお子さん一人ひとりにあった介助方法を指導した。
陸上での運動遊びでは、単純な動きから全身を使えるようにするために補助方法を伝えた他、自宅でできる内容を実施した。
- ② 遠隔地(高島市)の指導は、実施回数が2回と少なかったが、昨年に引き続いて体の使い方や補強運動、牛乳パックやフープを使用したサーキットを行い、一定の運動量を確保した後、ボッチャを行った。
また、プールでは、個々の目的に応じた指導を行った。
- ③ 年に2回の体力測定の他、補強運動や軽スポーツを行った。軽スポーツについては3カ月間続けて行うことで、受講者自らが取組み内容に工夫を加える等して技術の向上が見られた。
また、補強運動については受講者の体力の維持増進に繋がり、体の使い方・動かし方も意識できるようになった。

大人の体の使い方&スイム

(1) 目的

皆で楽しく体を動かしながら健康維持と体力アップを目的とする。

(2) 内容

【陸上でのトレーニング】

椅子に座ってのストレッチと筋力トレーニング

【水中でのトレーニング】

歩行、筋力トレーニング、泳ぎの基本、クロール

(3) 実施回数

5回(予定回数8回 内3回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ50人)

陸上でのトレーニングは、『県身協』で紹介している簡単トレーニングのメニューを中心に、どのようにしたら上手に体を動かせるようになるのかということや、力の入れ方を伝えた。参加者からは、教わった内容を家で行うことで、コロナ禍でも「筋力が衰えることなく過ごせている」という声をいただいた。

水中でのトレーニングでは、立位にて指先と手首に意識をし、水中で大きくゆっくり動かすことで、負荷をかける筋力トレーニングを行った。また、泳ぎの練習については、けのび時に、肩甲骨の使い方を意識し、浮いて楽に進むことを実感していただけるように繰り返し練習を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施回数が少なく、もう一步で25mを完泳できる方や、ようやくコツをつかめた方にとっては残念ではあったが、日々の利用時にポイントを伝える等声掛けを行い、次年度の参加につなげていきたい。



水中らくらくアドバイス

(1) 目的

身体(肢体)に重度の障害がある人が、水中でリラックスして楽しく体を動かす。介助者は、対象者と自らの負担が少なく、効果的な介助法を身につける。

(2) 内容

リラクゼーション、背浮きなど個々に応じた入退水の方法や補助方法、補助具の有効な使い方等

(3) 実施回数 7回

(4) 総 評 (参加者等延べ16人)

身体(肢体)に重度の障害があり、普段からなかなか身体の力が抜けない方がプールに入ることによって少しでも力が抜けるように、水の特性を生かし一人ひとりに応じた介助方法を指導した。また、介助者の基本的な姿勢や水中での体の動かし方、リラックスできる方法やその人に合った補助具の使い方などについて、障害者・介助者双方に負担が少なく効果的な介助方法等をアドバイスした。

参加者からは「いつも同じ方法でしか入水していなかったが、色々な介助方法を教えてもらってレパートリーが増えた」「補助具の種類や使い方一つで、力が抜けて楽な姿勢が取れるし、介助者も力を入れずに介助できることが分かった」などの感想が寄せられた。

重度肢体不自由児者の介助方法について、さらにスキルアップを図りたい。



親子水泳

(1) 目的

障害のある小学生が水に慣れ、親子で水泳を楽しむ中で、集団でのルールを身につけるとともに泳ぎの基本姿勢や集中力を養う。



(2) 内容

- ① ラジオ体操、軽運動(足指、足首の運動、ジャンプ等)
- ② 腰掛けキック、水浴び、入水
- ③ 基本練習(水慣れ、伏浮き、背浮き)
- ④ サーキット(各回のまとめ)

(3) 実施回数

4回(予定回数6回 新型コロナウイルス感染症の影響で日程変更して、全5回で実施内1回は中止)

(4) 総 評 (受講者等延べ24組64人)

今年度から、対象者の年齢層を変更し、知的障害のある小学生1～3年生として開催した。水慣れや呼吸練習、伏浮きや背浮きなど泳ぎの基本を繰り返し練習し、親には補助や介助方法の練習に取り組んでもらった。回を重ねる毎に、水に顔がつけることができるようになったり、浮きの姿勢がとれるようになったりとできることが増え、自信をつけて前向きに取り組む等、変わっていく姿が見られた。終了後「潜ったり、けりあしで浮いてみたり、今まで見たことない姿にとっても驚いた」「顔に水がかかることに抵抗がなくなった」等の感想が寄せられた。

幼児体の使い方&スイム

(1) 目的

楽しく身体を動かしながら身体の使い方を覚える。

(2) 内容

【小アリーナでの活動】

- ① 親子で座ってスキンシップあそび、体ほぐし、バランス、ジャンプ等
- ② 体のばし、しゃがむ→立つ、両足ジャンプなど
- ③ サーキット(基本動作を組み合わせたメニュー)

【プールでの活動】

- ① 各々にあった補助の仕方
- ② サーキット(トンネルくぐり、すべり台など)



(3) 実施回数

5回(予定回数6回 新型コロナウイルス感染症の影響で日程変更して、全5回で実施)

(4) 総 評 (受講者等延べ61人)

小アリーナでは、親子で行なえるスキンシップあそびや体ほぐしなど自宅でもできる内容を行い、後半はプールで一人ひとりにあった水中での補助やサーキットを行った。

自宅でできる動きを取り入れたことで、教室のない日も動きに挑戦していたとの声があった。

受講者からは、「子どもの様子を見ながら、楽しく今できることをサポート＝指導してもらえた」「親も関わり方などよくわかった」等の感想が寄せられた。

卓球ラリータイム

(1) 目的

多くの相手とラリーを行い、交流を深める中で技量を高めていく。

(2) 内容

6分間のローテーションでラリーを行いながら、ワンポイントアドバイスをを行う。

(3) 実施回数

7回(予定回数12回 内5回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ92人)

今年度から参加者同士の交流に加え、新しい試みとして指導員とラリーを行う際には、卓球台に印をつけた箇所を狙いながらラリーしてもらうことで、ラリーに変化をつけることができ、技術の向上にもつながった。参加者からは「ラリーをする中で様々な場所に打ち分けることができるようになってきた」等の声をもらうことができた。



STT ラリータイム

(1) 目的

視覚に障害のある人同士が、サウンドテーブルテニスのラリーを通して、交流を深める中で技量を高める。

(2) 内容

6分間のローテーションでラリーを行いながらワンポイントアドバイスをを行う。

(3) 実施回数

7回(予定回数12回 内5回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ87人)

昨年度まで卓球ラリータイムの中でSTTラリーを実施していたが、参加者が増えたことで、今年度から新規事業として立ち上げた。足を動かして体の正面でボールを打つように指導を行った結果、動かずにその場で打つことが少なくなり、足を動かしてボールの正面に移動して打ち返す回数が増え、ラリーが長く続くようになった。参加者からは「ラリーが長く続くようになって嬉しい」「毎回皆に会えることを楽しみにしている」等の感想がよせられ、交流の場にもなった。



水泳選手育成

(1) 目的

県障害者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への出場を目指す新たな選手の発掘・育成を行う。



(2) 内容

定期練習会の実施(毎週1回)

① 陸上練習(プールサイド)

足首、肩関節を中心としたストレッチ
体幹を中心とした筋力トレーニング

② 水泳練習(プール)

基本練習(スカーリング、けのび)、泳力別グループ指導・飛び込み練習

(3) 実施回数

23回(予定回数36回 内13回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (受講者等延べ713人)

基本練習の中で、繰り返し泳ぎの基本となるストリームラインを意識することで、スタート及びターン時の姿勢が良くなった。

陸上・水中ともに力を入れるポイントや、ゆっくりした動きの中で正確な動作練習を繰り返し行うがなかなか難しく、特に水中での動きになると力を入れるポイントを伝えることが更に難しい。今後は個々に応じた伝え方に工夫をしていきたい。

バスケットボール選手育成

(1) 目的

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障がい者スポーツ大会』に向けた選手の発掘と育成を図り、県大会出場を目指す。



(2) 内容

準備運動：ストレッチ・柔軟

補強運動：腕立て・腹筋・ハイハイ・もも上げ・サイドステップ・ダッシュなど

基本練習：ハンドリング、ドリブル、パス練習など

応用練習：レイアップシュート、ジグザグドリブルからシュート、
オールコート2対1、ドリブルなし(3対2、4対4)、ミニゲーム

(3) 実施回数

18回(予定回数27回 内9回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (受講者等延べ174人)

前半は基本的な体力づくりや体の使い方を習得するための補強運動を行った。後半は、バスケットボールの基本練習をメインに行うことで、基本的な動きの習得につなげた。また、県大会が近づくのに合わせて、対人練習を増やし、より実践に近い練習を行った。

2年ぶりとなった県大会では、女子は優勝することができ、男子は、2年ぶりの試合ではあったが、日頃の練習の成果を十分に発揮することができた。

水泳個別アドバイス

(1) 目的

水慣れしていない人や、水泳経験の少ない人がそれぞれの泳力に合った入水やリラックス方法または泳法を習得する。

(2) 内容

個人の目的・希望に応じた指導(歩行、水慣れ、四泳法など)

(3) 実施回数 36回

(4) 総 評 (受講者延べ36人)

個別アドバイスは、集団での受講が難しい方にとって、1対1の環境で受講者の課題に絞って受講できる。比較的小学生から高校生の受講が多く見られ、その多くは継続して受講されている。回数を重ねる毎にできることが増え、自信や、やる気につながり、水泳を継続するきっかけになっている。当センターの更なるプール利用や、水泳記録会の参加等にもつなげていきたい。



体力測定・トレーニングアドバイス

(1) 目的

身体障害者および精神障害者に自己の体力の現状を正しく認識して、今後の健康生活の基本となる運動習慣の大切さや体力の維持向上を図る動機づけおよび行動の変化を目的とする。

(2) 内容

- ①身長、体重、血圧、握力、長座体前屈、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち、10M最大歩行、タイムドアップ&ゴーテスト、大腿周囲・下腿周囲の測定、体組成計による体組成分析
- ②理学療法士からのトレーニングアドバイスおよび管理栄養士からの栄養指導

(3) 実施回数 1回

(4) 総 評 (受講者等延べ12人)

新型コロナウイルス感染症対策として、人数制限に加えて時間指定を行ったことで、密にならず、測定を行うことができた。測定後は理学療法士、管理栄養士からのアドバイスを個々に丁寧に指導していただくことができた。受講者からは「毎年のデータをとって比較するのが楽しみです」「毎年続けてほしい」との声があった。



体組成測定会

(1) 目的

障害のある人もない人も自己の体調の現状を正しく認識してもらうため体組成測定会を実施し、測定結果に基づいて個人評価を行う。また個人評価に基づいて個々の体の状態により、今後の健康の維持増進、および社会参加の促進につなげる。



(2) 内容

体組成測定(体脂肪率、筋肉量、体水分量、肥満度等)

(3) 実施回数 2回

(4) 総 評 (参加者等延べ29人)

参加者は、自分の身体に関心の高い方が多く、測定結果に納得される方、危機感を持たれる方とに分かれた。測定後は、今後運動をするうえで意識してもらうことや、食生活等、日常生活で工夫できることについてアドバイスをを行った。

測定会参加後、意識して運動強度を上げられる方や、利用の回数が増えた方がおられた。参加者からは「筋肉量が意外と少なくて驚いた」「今後、有酸素運動だけではなく、筋力トレーニングも行いたい」等の感想がよせられ、健康の維持増進をより意識してもらう機会になった。

琵琶湖一周に挑戦

(1) 目的

水泳と水中歩行に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ① 琵琶湖一周 = JR 換算距離 178km とする。
- ② 泳いだ距離または歩いた距離を、個人カードに記入する。
- ③ 毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。
- ④ 達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間 40 回(今年度は開所日数減を考慮し回数を減らした)以上挑戦された方には記録証を授与する。
- ⑤ 参加者全員に 1 年間(1 月～ 12 月)の個人カードを記録冊子にして交付する。



(3) 総 評 (参加者等延べ542人)

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、挑戦してもらえる日数が減少したが 19 人の参加者が一周を達成し、21 人の参加者が記録証を受賞された。

参加者からは、「来年も達成できるように頑張ります」等の感想がよせられ、一周達成という目標に向け自分のペースで歩いたり泳いだりと継続してプールを利用されている。

また、記録のことについて話す等参加者同士や職員とのコミュニケーションを図る機会にもなっている。

日本縦断に挑戦

(1) 目的

エアロバイクやトレッドミル等での運動に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。



(2) 内容

- ① 日本縦断は、北海道から沖縄までの鉄道・新幹線・飛行機を組み合わせた換算距離3,418kmとする。
- ② エアロバイクまたはトレッドミルで進んだ距離を個人カードに記入する。
- ③ 毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。
- ④ 達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間40回(今年度は開所日数減を考慮し回数を減らした)以上挑戦された方には記録証を授与する。
- ⑤ 参加者全員に1年間(1月～12月)の個人カードを記録冊子にして交付する。

(3) 総 評 (参加者等延べ14人)

トレーニング室の利用について、運動施設の閉鎖や、人数制限を設けたため、縦断達成者、また40回以上挑戦された方がいなかった。今後、改めて運動に一定の目標を持ち、継続した利用による体力増進と社会参加の促進につながるよう新規参加者の獲得に努めたい。

タイムトライアル

(1) 目的

自己のタイムを定期的に計測することで、自己記録を意識し競技への意欲を高める。飛び込み機会を持つことで技術を高める。



(2) 内容

- ① ウォーミングアップ
- ② 飛び込み練習(ワンポイントアドバイス)
- ③ タイム測定

(3) 実施回数

3回(予定回数4回 内1回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ3人)

当センターで開催される水泳大会の前に実施し、日頃あまりできない飛び込み練習やタイム測定を提供することで、参加者は最終調整として利用されている。ビデオ撮影により、フォームを確認することができ、それを見ながらアドバイスをを行うことで上達が見られた。

参加者からは「大会前に飛び込みを練習できることは嬉しい」「今回のタイムを越えられるように大会では頑張ります」等の声があった。

地域体の使い方 キッズ（湖北・湖西）

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。



（２）内 容

- ① 円になっての運動（体ほぐし、補強運動）
- ② 列での運動（ハイハイ、その場足ぶみ、両足ジャンプ、片足立ち、けんけん等）
- ③ サーキット（フープや牛乳パック、マット等を使い、基本動作を取り入れてコースを設定）

（３）実施回数

２回（予定回数５回 内３回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

（４）総 評（受講者等延べ３０人）

年々回を重ねる毎に、評判が口コミで広がり、４・５歳児の申込者が増えてきている。基本の動きや体の使い方については、一人ひとりのペースに合わせてすすめた。後半のサーキットでは、フープや牛乳パックを置き、基本運動とチャレンジする内容を組み合わせて行った。受講者からは「習いごとは難しいが、この事業は楽しく通えるので今後も続けたい」との声をいただいた。

地域体の使い方 ジュニア（湖北・湖西）

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする



（２）内 容

- ① サークルでの運動（ストレッチ、補強運動）
- ② 列での運動（ハイハイ、高ばい、片足立ち、その場足踏み、ジャンプ、ケンケン等）
- ③ サーキット（フープや牛乳パック、マット等を使ったコースを設定）

（３）実施回数

２回（予定回数５回 内３回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

（４）総 評（受講者等延べ３４人）

９人中４人が昨年から引き続き受講されていることもあり、受講者は落ち着いて取り組まれていた。

補強運動や基本的な動作練習を、やり方を変えつつ繰り返し行うことで、１時間の教室の中でもステップアップする様子が見られた。

今後は新規受講者も獲得していけるよう、渉外活動にも力を入れていきたい。

地域短期水泳（湖北・湖東）

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（２）場 所

甲良町保健福祉センター温水プール

（３）内 容

●親子水泳：水慣れ・伏浮き・背浮き・介助の仕方・滑り台等

●中学生以上：水中運動・水慣れ・基本姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・板キック・クロール

（４）実施回数

２回（予定回数５回 内３回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

（５）総 評（受講者等延べ１０９人）

小学生の部は、親子での取り組みと子どもへの介助方法や関わり方などそれぞれに合わせた指導を行った。親子で楽しく水の中で身体を動かし、練習によって「できること」「できたこと」を共有してもらえた。

中学生以上の部では、身体全体を使った水中でのダイナミックな動きで運動量を確保した後に、水慣れと基本姿勢を繰り返し行い、その後クロール等の技術練習を行った。短い距離で基本練習を繰り返すことで、泳ぎを整えることができた。

両部ともに、受講者や保護者との関係性が構築されてきた時期であり、受講者自身の動きや反応から、今後の展開に期待していた中での中止は非常に残念であった。



地域短期水泳（湖西）

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（２）場 所

高島市 B&G 温水プール

（３）内 容

●親子初級・中級

（小学生の知的障害者とその親の部）

水慣れ・基本姿勢・け伸び・伏浮き・背浮き・腰かけキック・バタ足・板キック等

●初級・中級（中学生以上の知的障害者の部）

基本姿勢・け伸び・伏浮き・背浮き・腰かけキック・バタ足・板キック・クロール
呼吸法・背泳ぎ等

（４）実施回数

３回（予定回数５回 内２回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

（５）総 評（受講者等延べ６０人）

親子初級・中級では、受講者全員で同じ取り組みを行い、水中だからできる動きや、泳ぎ以外の動きで運動量の確保をして水慣れを進めた。

初級・中級では、泳力別のグループに分けて、水慣れ、基本姿勢からのクロールや背泳ぎ等の練習を行った。

「少しずつではあるが、成長が見られてうれしい」などの声をいただいた。



障害者スポーツ体験指導事業

(1) 目的

障害者団体からの要請に応じて、現地への職員派遣も含めて広く事業展開し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図る。

(2) 内容

実施日	依頼先	内容	人数
令和3年 6月25日	瀬田中学校	水泳	10 人
7月15日	三雲養護学校中学部	水中レクリエーション	8 人
8月 5日	支援センターあーと	レクリエーション、軽スポーツ	17 人
10月21日	東近江市更生会	ボッチャ	15 人
10月28日	滋賀県立信楽学園	バスケットボール	13 人
11月14日	バスケットボール県民体育大会	バスケットボール	15 人
11月28日	草津市手をつなぐ育成会	ボッチャ	17 人
12月25日	守山市手をつなぐ育成会	スローイングビンゴ、輪投げ	25 人
令和4年 1月 8日	高島くれよん	体操、軽スポーツ	15 人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 7 件

計 9 件

135 人

茶道教室①・②

(1) 目的

障害のある人が茶道教室に参加して、基本を身につけ、茶道を楽しむ情操を豊かにするとともに、参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。



(2) 内容

① お茶のいただき方の練習

② 割稽古(帛紗さばき、棗・茶杓・茶碗の清め方、 茶筌通しの仕方等)

③ 個々の能力に応じたお点前^{てまえ}を学び、通してできるように練習を行う

(3) 実施回数

4回(予定回数5回 新型コロナウイルス感染症の影響で日程変更して全4回で実施)

(4) 総 評 (受講者等延べ65人)

教室は、茶道未経験者3名を含めての開催となり、細かな作法を講師と確認しながら和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。「車椅子で茶道ができて幸せです」「新しい和敬点前^{わけいてまえ}も教えてもらえて大変だったけど楽しかったです」など満足度が高いことが伺えた。

絵画教室スマイル

(1) 目的

障害のある人が気軽に参加できて、自由に表現できる場を提供し、文化活動の振興の一助とする。



(2) 内容

① “自分の好きなものを描こう”というテーマに沿って自分の作品を制作する

② 仕上がった作品を他の受講者の前で発表する

(3) 実施回数

6回(予定回数7回 内1回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (受講者等延べ97人)

作品作りのテーマを「自分の好きなものを描く」とし、受講者は毎回真剣なまなざしで作品作りに取り組まれていた。受講者は、作品が完成したと思ったところから、講師のアドバイスを受け、もう1度作品作りに取り組むことで、作品がより深いものに変化することを感じられていた。

また、新たな取り組みとして、2つの作品展に応募したところ、ぴかつtoアート展で2名の受講者が入選された。ご本人には大きな自信に、また他の方には励みになり、教室として成果をあげることができた。

フラワーアレンジメント教室

(1) 目的

障害のある人がフラワーアレンジメント教室に参加し、お花に親しみ、楽しみながらフラワーアレンジメントを学び、情操を豊かにするとともに参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。



(2) 内容

第1回目：ハロウィンのフラワーアレンジ

第2回目：プードル

第3回目：クリスマスアレンジ

第4回目：ラウンド「春」

第5回目：ラウンド「バレンタインアレンジ」

(3) 実施回数 5回

(4) 総 評（受講者等延べ79人）

今年度から、新たな講師を迎え新規受講者も10人中5人とフレッシュな教室となった。教室は、季節のイベントにちなんだアレンジメントや、カーネーションを用いたプードルを作成するなど、多様なアレンジメントを楽しんだ。教室の最後には完成した作品をならべて作品を見せ合い感想を言い合いながら楽しく交流することができた。

絵手紙教室

(1) 目的

障害のある人が、絵手紙教室に参加して、形式ばらず、楽しく思いのまま作品を制作して自らを表現するとともに、参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。



(2) 内容

第1回目：絵手紙の基本を学ぶ

（道具の説明、筆の持ち方、絵手紙の心得等）

第2回目：前回は振り返りながら、絵手紙をつくる

（文字の選び方・書き方、落款の位置、色ののせ方等）

第3回目：絵手紙を仕上げて投函してみる

（いろいろな画材に挑戦する、中心になるものを選んでとらえる。）

(3) 実施回数 3回

(4) 総 評（受講者等延べ33人）

今年度から新たに始まった教室である。「ヘタでいい ヘタがいい」を合言葉に、受講者は自分の興味のある題材に向き合い、1本1本の線を大切に自分のペースで取り組まれていた。

受講者の一人は、新型コロナウイルスでお見舞いに行けない入院中の祖母に制作した絵手紙を送ったところ泣いて喜んでもらえ、「絵手紙は初めての体験でしたが、絵により人から心からの思い出を届ける素晴らしさを知りました」と報告されていた。

お正月生け花教室

(1) 目的

障害のある人が生け花教室に参加して、季節折々の花を愛で楽しみながら、花を生け、情操を豊かにし、教養を高めるとともに、受講者同士の交流と社会参加への促進を図る。



(2) 内容

- ① 花材等の全般の説明
- ② 講師が見本を生けながら説明を行う。
- ③ 講師の手本を見ながら花を生ける。
- ④ 生け終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける。
- ⑤ 質疑応答

(3) 実施回数 1回

(4) 総 評 (受講者等延べ17名)

毎回申込締切日を迎えるまでに定員満了になる人気の教室である。「お正月の花を生ける」という趣旨が明確でイメージしやすく、美しい花とともに気持ちよく新年を迎えられると受講を楽しみにしていただいている。

継続の受講者が半数を占めるが、ゆったりとしたペースの中で進められる教室は初心者にもわかりやすく、気負うことなく取り組んでもらうことができた。

手作り体験教室 (アロマワックスサシェ)

(1) 目的

障害のある人が、手作り体験教室に参加して、優しく香るアロマワックスサシェをつくり、人気のハンドメイドを楽しみながら、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。



(2) 内容

- ① 使用する材料、制作方法、注意事項の説明
- ② 講師の見本を見ながらデザインを考える
- ③ 型にロウを流し込み、材料を配置する
- ④ 型から外し、作品を展示し、受講者で鑑賞する

(3) 実施回数 1回

(4) 総 評 (受講者等延べ17名)

アロマが優しく香る中、受講者はできあがりイメージしながら、楽しんで取り組まれた。完成した作品は全員で鑑賞し、一人ひとりデザインにこだわりのポイントがあり自分だけの作品ができたことで受講者は大変満足されている様子だった。受講者からは「楽しく完成することができた」「良い香りで、装飾のお花もきれいだった」等の感想が寄せられた。

将棋と囲碁のつどい

(1) 目的

障害のある人となない人が共に参加し、お互いが触れあい交流を深めるとともに、親睦を図り棋力の向上と積極的な社会参加を促進する。

(2) 内容

将棋・囲碁の自由対局

(3) 実施回数

6回(予定回数10回 内4回を新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (参加者等延べ50人)

昨年度から引き続き障害のある人の参加が少なくなっている。参加者同士は、顔見知りも多く同じ趣味を持つもの同士、和気あいあいと対局しながらも、将棋と囲碁独特の次の一手を考えながら真剣に向き合う様子が見られた。

参加者からは、「月に1度の楽しみです」「知り合いが増えて、交流ができる場所の1つとして重宝しています」等の感想が寄せられた。



地域文化教室

(1) 目的

当センターにおいて開催している文化教室を、遠隔地の障害のある方に対し、在住地近隣で開催することにより、県民サービスの均一化を図るとともに、参加者同士の交流と社会参加を促進する。

(2) 内容

- ① プリザーブドフラワーアレンジメント教室
湖西福祉圏域(湖西総合在宅サービスセンターほろん)
湖南福祉圏域(栗東ウィングプラザ)

- ② 手作り教室(かんたん押絵)
大津福祉圏域(大津市立障害者福祉センター)
湖北福祉圏域(長浜市保健センターびわ分室)

※湖東福祉圏域、東近江福祉圏域、甲賀福祉圏域については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(3) 総 評 (受講者等延べ38人)

大津、湖北福祉圏域では、翌年の干支をモチーフにした押絵を作っている。誰もが簡単に作れる仕様になっており、湖北では「亥」から始まり4年目となった。「干支1周12個揃えるまで頑張ろう!」と、毎年楽しみに参加していただいている。コロナの関係で中止の地域もあるが、交流を支障なく再開できるように準備しておきたい。



4. 更生相談事業

医療相談

(1) 目的

障害がある人に医療の専門的な立場から、障害の状態に応じた指導・助言を行い、障害者の健康管理、機能回復および体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

(2) 内容

① 対象者

当センターの利用者カードを所有している人で機能の維持や回復を望む人

② 相談日時

原則として毎月1回、第2または第3水曜日 午後2時30分～4時30分(4枠)

③ 実施内容

(ア) 予備調査

- ・相談内容の把握(申込用紙)
- ・問診による各種チェック(障害内容、既往歴、現病歴、健康状態など)
- ・相談項目、日時の決定およびスタッフへの連絡調整

(イ) 健康状態の把握

体温測定や体調チェック・問診など

(ウ) 医療相談

- ・医師による各疾患相談、訓練内容の指導
- ・理学療法士による機能回復訓練の実技指導や日常生活での留意点などの指導

④ 相談内容

主な相談として

(ア) 自宅におけるリハビリ内容について

(イ) コロナ禍における日常生活での体の動かし方について

(ウ) センター施設(プール・トレーニング室)を利用したリハビリ指導

(エ) 運動時や日常生活での注意事項

⑤ 担当スタッフ

医師 琴浦 良彦 氏(整形外科)

理学療法士 小嶋 高広 氏・井上 卓也 氏

当センター指導員、看護師



(3) 実施回数

6回(予定回数12回 内5回は新型コロナウイルス感染症の影響、内1回は医師の都合により中止)

(4) 総 評 (相談者等14人)

自粛生活を余儀なくされる中、運動やリハビリ不足により健康に対する不安があり、体力や筋力を落とさないリハビリの指導を希望される相談が多かった。

相談回数は減少したが、コロナ禍でもリハビリの必要性を実感され、医師や理学療法士の説明を真剣に聞きながら熱心に指導を受けていた。

相談者は心身の不調を感じている人も多かったが、相談後は「この機会に相談できて良かった。トレーニングを続けてみます」「自宅でも頑張ってみます」など前向きな声が聞けた。

理学療法士によるリハビリ相談

(1) 目的

理学療法士による、障害の状態に応じたりハビリの指導・助言を行うことで、障害のある人の継続的なリハビリおよび自らがリハビリに取り組めるきっかけ作りとする。

(2) 内容

- ①リハビリ実施状況の確認
- ②リハビリ内容の相談について
- ③リハビリの指導
- ④日常生活、運動についてのアドバイス

(3) 実施回数

1回(予定回数12回 内4回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (相談者等1人)

相談者は日々のリハビリの機会が少なくなったため、当センターで利用できるレッグエクステンションやエルゴメーターを使っでのリハビリの再開を希望された。理学療法士の丁寧な指導により、「久しぶりに筋力を鍛えることができて良かった。センターにできるだけ通い、続けて利用したい」と満足した様子が伺えた。

今年度は開催回数や相談希望者が少なかったが、今後は前向きなリハビリを継続してもらうためにも利用者に積極的に声をかけをしていきたい。



アドバイスタイム水中歩行

(1) 目的

水の特性を利用した水中での歩行や運動を通して、リハビリテーションの効果を高めるとともに、体力の増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ① 理学療法士による水中でのアドバイス
- ② 指導員によるリラクゼーション方法や水中での歩行動作の確認
- ③ 看護師による問診およびメディカルチェック

(3) 実施回数

8回(予定回数24回 内16回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (受講者等延べ50人)

水中歩行が生活の一部となっている受講者が多く、体力維持やリハビリの継続が必要である中、少ない開催となった。定期的な利用まではいっていないが理学療法士のアドバイスのもと短時間でしっかりとリハビリができた。受講者からは「一人ではリハビリを継続できないが、先生や指導員さんからのアドバイスで楽しくできた」「久しぶりの水中歩行で嬉しい」などの声があった。今後はリハビリの機会を減らすことなく陸の上でも対応できる対策をしながら継続していく。



理学療法士による障害別水中運動

(1) 目的

理学療法士による、重度障害・脳血管障害・関節障害の各障害別に応じたりハビリ指導を行い、より効果的な水中運動を身につける。



(2) 内容

障害別による水中運動、水中ストレッチ、リラクゼーション等の指導をする

(3) 実施回数

6回(予定回数15回 内9回コロナウイルス感染症の影響で中止)

(4) 総 評 (受講者等延べ9人)

重度障害者の参加がなかったため関節障害と脳血管障害に特化して開催した。特に関節障害者はコロナ禍により交流の機会が少なくなったことで、仲間と一緒に受講できる機会として水中運動に参加され、良い雰囲気の中理学療法士からの指導を受けていた。受講者からは「一人だとやろうとする気持ちがわからない。みんなでするのが楽しい」との声があった。また、脳血管障害者は一人での受講になったが理学療法士の指導を個別に受けることができ、「とても丁寧に教えていただきよく理解できた。また参加したい」と大変満足され参加者自身の意欲向上にもつながった。

地域支援 楽しく笑顔でリハビリ

(1) 目的

地域において、パーキンソン病の人にリハビリ等を通して身近な場で交流できる機会をつくり、より充実した生活が送れることを目的とする。

(2) 内容

リハビリレクリエーション・体操・座談会

・高島圏域(高島保健所)実施回数2回(予定回数4回 内2回中止)

※湖北圏域(長浜2回)、東近江圏域(東近江保健所1回)、

甲賀圏域(甲賀保健所3回)、湖東圏域(彦根保健所2回)

の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止。



(3) 総 評 (受講者延べ16人)

昨年に引き続き、高島圏域での2回開催のみとなった。ボッチャのボールを使っ
てのレクリエーションを受講者とスタッフも一緒に楽しむことができ「大変楽しい
ひと時を過ごさせてもらいました」との声をいただいた。レクリエーションを通し
て体を動かす機会や、日々の生活に役立つ体操など受講者同士の交流を図る機会に
もなった。次年度こそは新型コロナウイルス感染症の収束を望み、多くの地域で事
業を再開していきたい。

5. 養成・研修事業

健康と体に関する学習会

(1) 期 日

第1回目 令和3年 11月 3日(水・祝)

第2回目 令和4年 1月10日(月・祝)

第3回目 令和4年 3月21日(月・祝)

(2) 受講者人数等延べ45人

(3) 目 的

中高年者の健康の維持増進につなげるためにからだに関する知識を学び、日常生活を見直し、自身の健康について振り返り、実践につなげる。

(4) 内 容

第1回目：運動をすることによる効果について

講師：びわこリハビリテーション専門職大学
理学療法士 池谷 雅江 氏

第1回目評価

運動の効果を筋力、心肺機能、代謝、認知の4つの内容に分けて講義を行っていただいた。講義後に日常にできる簡単な体操を実技として行われた。脳トレ要素を含む体操ではスムーズな動きができないながらも受講者同士で楽しんでいる様子が見られた。



第2回目：睡眠の効果について

講師：立命館大学 理工学部
准教授 岡田 志麻 氏

第2回目評価

睡眠のメカニズムやより良い睡眠をとるための方法について講義を実施していただいた。講義後の質疑応答では、自身の睡眠状況を尋ねることも含め、多くの質問があり、睡眠について関心の高さが伺えた。



第3回目：バランスの良い食事がもたらす効果について

講師：管理栄養士 市木 圭子 氏

第3回目評価

バランスの良い食事の大切さを軸に飲酒や肥満などを含めた内容を講義していただいた。食生活の工夫について話し合うグループワークでは、新たな発見やそれぞれの工夫が日常生活においての刺激になった様子で、大盛況だった。



(5) 総 評

3回の開催をとおして受講者には、日常で実践できる内容や新しい知識を学んでいただくことができ、健康に対してより関心を持ってもらうことができた。受講者からは、「病院で聞いたりしているが、今回は食事の大切さを具体的に知ることができて有意義であった」「意識改革が必要だと思った」等の感想が寄せられ、自身の健康について振り返っていただく機会にすることができた。

障害者スポーツ指導者研修会

(1) 期 日 令和4年3月6日(日)

(2) 参加人数等 13人

(3) 目 的

障害者スポーツを指導している人、または2025年滋賀県で開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、今後指導に関わる人のスキルアップを図る。



(4) 内 容

- 講義 - 「障害者へのスポーツ指導について
トレーナーとしての関わりから見てくること」
- 実技 - 「車いすバスケットボール」
- 講師 - びわこリハビリテーション専門職大学 和智 道生氏

(5) 協 力 滋賀県広域スポーツセンター

(6) 総 評

全国障害者スポーツ大会にトレーナーとして帯同された理学療法士の和智氏を講師として招へいた。指導経験をもとにトレーナーとしての関わりを全国障害者スポーツ大会(岩手)の動画や資料を用いて、より具体的に講義いただいた。

受講者からは、「具体的な話でとても分かりやすかった」などの感想が寄せられた。

後半は、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら、車いすバスケットボールの体験を行った。「見ているのと実際に乗るのとでは、まったく違い車いすに乗ってバスケットをするのは難しかった」との感想があった。

ボランティア講座

(1)期 日 令和4年3月20日(日)

(2)参加人数等 28人

(3)目 的

障害者理解の基本的な内容を実践的に学んでいただき、より良いボランティア活動の充実へとつなげることを目的に実施する。

(4)内 容

－講義－ 「視覚障害について」

－実技－ 「視覚障害疑似体験」 「サウンドテーブルテニス体験」

(5)総 評

「視覚障害について」というテーマで、基本的な見え方や障害者スポーツでの事例について講義を行った。実技では、視覚障害者の日常場面を設定し、アイマスクを着用し、当事者とその介助者の体験や、視覚障害者スポーツのサウンドテーブルテニスでラリーを体験してもらった。受講者からは、「普段接する機会は少ないが、実際に当事者の立場を経験でき、見えない事での不便さや普段いかに目からの情報に頼っているかが分かって良かった」等の意見をいただいた。

(6)令和3年度ボランティア登録状況

登録者数70人(更新者57人 新規者13人)



6. 共催事業

バスケットボール強化練習会

(1)目 的

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けた選手の育成と強化を行う。

(2)内 容

準備・補強運動：ストレッチ・柔軟

基 本 練 習：ディフェンス練習、ドリブル、レイアップ
シュート、フリースロー、3メンなど

応 用 練 習：オールコート(1対1、2対1、3対2)
ドリブルなし(3対2、4対4)、ミニゲームなど

(3)協 力 一般社団法人 滋賀県バスケットボール協会

(4)実施回数 2回(予定回数6回 内4回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

(5)総 評(受講者等延べ43人)

滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けて、現在滋賀県内でバスケットボールをしている知的・発達障害のある高校生以上の育成と強化を図るために、今年度より開催した。

普段は別のチームで練習している選手が集まり、最初は緊張していたが、時間の経過とともに慣れていき、指導されたことを、どのようにしたら上手くいくかなどを話し合う姿が見られた。

次年度も継続して開催し、滋賀県のバスケットボールの育成と強化を図りたい。



7. 自主事業

(1) 目的

障害者福祉センターの設置目的に合致し、かつ管理業務の実施を妨げない範囲において障害者スポーツの振興と健康増進を図る。

(2) 内容

①個別サポート

事業名	期間	延受講者数
水泳個別アドバイス	通年	0人

②バックアップ教室

事業名	回数	延受講者数
タイムトライアル	3回	26人

③地域支援 障害者スポーツ福祉体験指導事業

実施日	依頼先	内容	人数
令和3年7月17日	草津市西一会館	ボッチャ	25
7月30日	綾羽高等学校	ボッチャ、 車椅子バスケットボール	73
10月22日	玉川中学校	ボッチャ	33
12月 1日	瀬田中学校	ボッチャ（教員向け）	22
令和4年2月10日	彦根市立中央中学校	ボッチャ	148
2月17日	光泉カトリック中学校	ボッチャ、 車椅子バスケットボール	71
計			372人

8. お客様アンケート

アンケート実施期間：令和3年4月20日(火)～5月30日(日) 回答件数97件

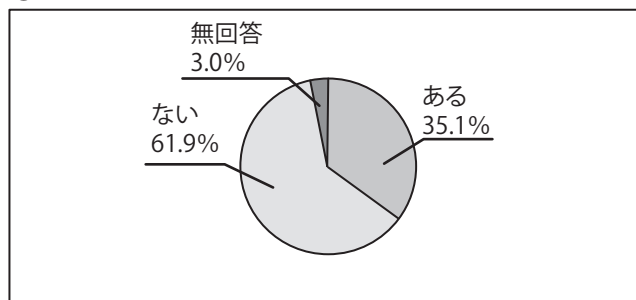
当センターが行っているスポーツ・文化等の事業や受付窓口の対応などのサービスについて、利用者の皆様から評価やご意見をいただき、より良い施設運営とサービスの向上に努めることを目的として「お客様アンケート」を実施した。

回答者の属性

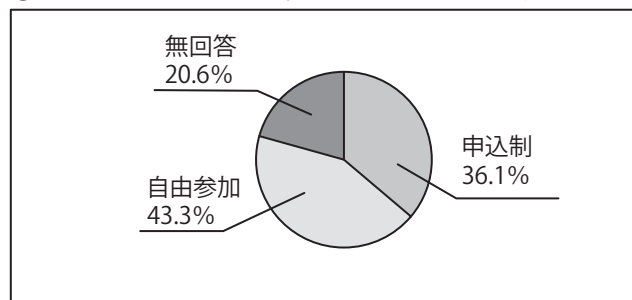
①性別	男性	44人	女性	50人	無回答	3人						
②年齢	20歳未満	12人	20歳代	9人	30歳代	9人	40歳代	10人	50歳代	21人	60歳代	21人
	70歳代	14人	80歳以上	1人	無回答	0人						
③障害区分	視覚	7人	聴覚	4人	肢体	21人	内部	3人	知的	12人	精神	6人
	情緒	1人	介助者	25人	一般	12人	その他	4人	無回答	4人		
④施設	アリーナ	41人	小アリーナ	26人	プール	46人	トレ室	11人	会議室	10人	和室	2人
	射場	5人	その他	0人	無回答	0人						
⑤時間帯	午前	65人	午後	46人	夜間	13人	無回答	1人				
⑥頻度	ほぼ毎日	1人	週1～2	53人	月1～2	38人	無回答	5人				

各教室について

①当センター主催の教室に参加したことがある

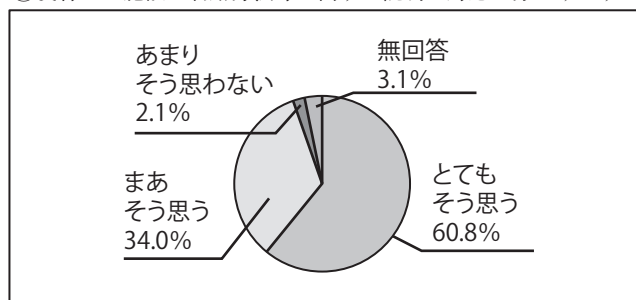


②教室の形態はどのようなものが参加しやすいか

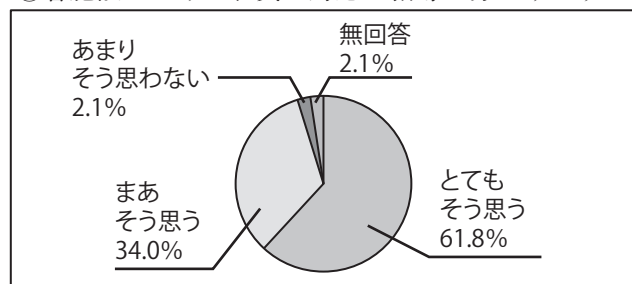


職員について

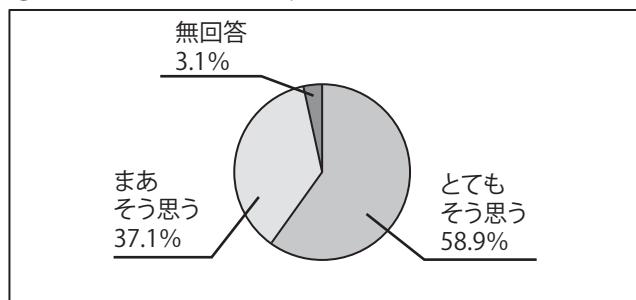
①受付での施設の使用方法等に関する説明・対応は分かりやすい



②各施設における職員の対応や指導は分かりやすい

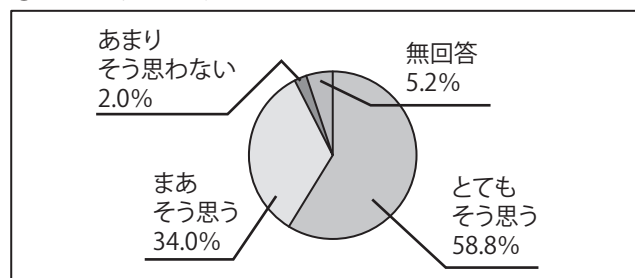


③利用者の個人情報を守られている

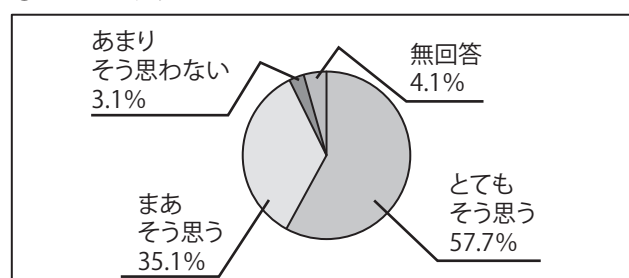


施設環境について

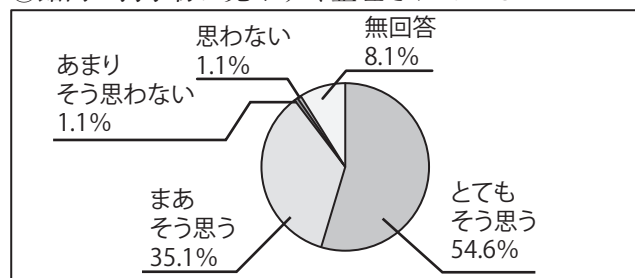
①館内は使いやすく整備されている



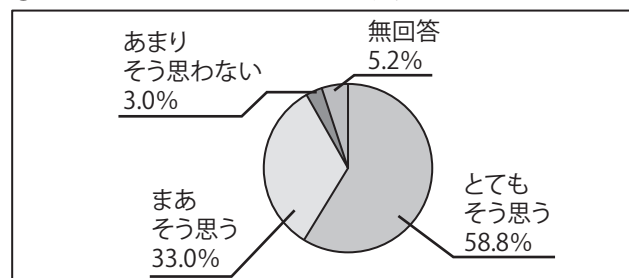
②館内は清潔に保たれている



③館内の掲示物は見やすく整理されている

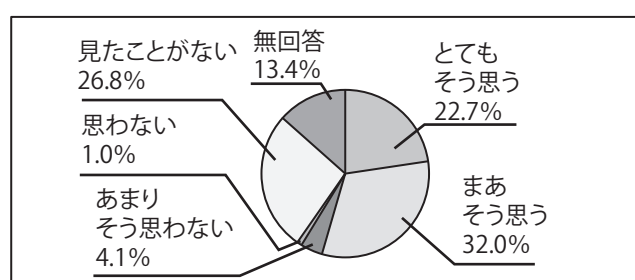


④新型コロナウイルス感染症対策は適切である

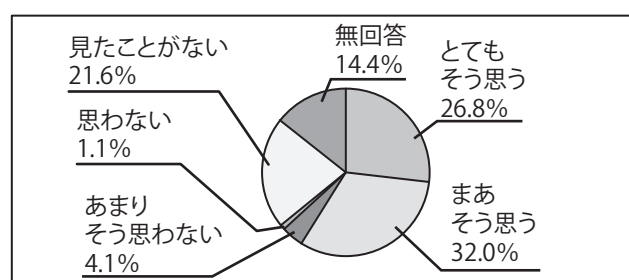


広報誌「県身協」及び当センターホームページについて

①「県身協」における内容・レイアウトは見やすい

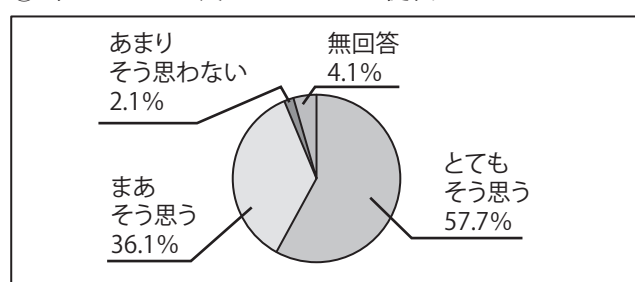


②ホームページにおける内容・レイアウトは見やすい



総合的評価について

①当センターは良いサービスを提供している



総 評

アンケート調査については、多くの設問項目で満足度の高い評価をいただいた。しかし、ホームページ等の情報の発信については、まだ不十分であり、今後さらに多くの方に見ていただけるように工夫していきたい。また、教室への記述項目では、具体的にどのような競技をしたいのか、さらに指導員とより多くの関わりを持ちたいという要望があがっていた。そのことから次年度の事業・教室を検討することとなった。アンケート調査から得た声を直接反映できる機会ともなった。今後も利用者からの貴重な意見を伺える良い機会として活用したい。

9. 広報・啓発

広報・啓発

(1) 目的

障害者団体をはじめ、行政機関、施設利用者ならびに施設見学者等に対し、当センターの概要や事業内容等について周知を図る。

(2) 内容

①印刷物

- | | | | |
|-------------------|--------|-----------------|---------|
| ・「センターだより」年4回各 | 8,000部 | ・「令和2年度年報」 | 200冊 |
| ・「事業案内ポスター」B2 | 300枚 | ・「事業案内チラシ」A4 | 13,000枚 |
| ・「利用カレンダー」ポケットサイズ | 3,000枚 | ・「利用のてびき」 | 1,000枚 |
| ・「点字版 利用カレンダー」 | 15部 | ・「音声版 利用カレンダー」 | 15部 |
| ・「点字版 事業案内チラシ」 | 15部 | ・「音声版 事業案内チラシ」 | 15部 |
| ・「点字版 利用者アンケート」 | 10部 | ・「音声版 利用者アンケート」 | 10部 |

②広報

行事、教室、事業等のお知らせや受講者の募集を広く県民等に周知するため、県・市町広報誌、各新聞紙面等に登載依頼をした。また、当センターの概要や施設の予約状況等最新の情報等をホームページに掲載した。なお、新型コロナウイルス感染症に伴うセンターの利用制限や事業、教室の変更等についてもホームページや館内の掲示等で周知に努めた。

③情報提供

来所者のふれあいの場(ラウンジ)に月刊誌や季刊誌等を常備し、福祉情報等を提供していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、書棚を一時封鎖した。館内はWi-Fi環境を整備し、情報入手の利便性を高めた。

④広聴

事業ごとにアンケート等を取り、広く意見を求めた。

⑤渉外活動

県内関係機関へ出向き、作成したチラシを配布し、周知を図った。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ・滋賀県庁障害福祉課、スポーツ課、国スポ／障スポ大会課 | |
| ・県内保健所(7か所) | ・滋賀県立リハビリテーションセンター |
| ・滋賀県立小児保健医療センター | ・滋賀県立精神医療センター |
| ・特別支援学校(16学校) | ・県内市町障害福祉担当課(19市町) |
| ・県内市町支所障害福祉担当課 | ・県内市町社会福祉協議会 |
| ・県内市町療育センター | ・県内市町教育委員会(19市町) |
| ・滋賀県障害者スポーツ協会 | ・滋賀県立視覚障害者センター |
| ・滋賀県スポーツ協会 | ・彦根子ども家庭相談センター |
| ・草津市立障害者福祉センター | ・大津市立障害者福祉センター 等 |

10. 会議等

(1) 福祉センター運営協議会

滋賀県立障害者福祉センターの効率的な運営を図るため、指定管理者である公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会会長は、障害者団体や関係団体、関係行政機関等から選出された委員で構成される「滋賀県立障害者福祉センター運営協議会」を設置している。

運営協議会委員

選 出 母 体	役 職 名	委員氏名
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	会長	中村 裕次
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	副会長	脇 眞澄
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	理事長	崎山美智子
社会福祉法人滋賀県障害児協会	法人代表	大瀧 幸雄
社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会	会長	大橋 博
一般社団法人滋賀県ろうあ協会	専従職員	塩尻 靖子
特定非営利活動法人滋賀県脊髄損傷者協会	理事長	前野 奨
特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会	理事	駒阪 博康
障害者の生活と権利を守る滋賀県連絡協議会	事務局長	海藤 尚武
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会	参事	谷 佳代
滋賀県障害者スポーツ協会	会長	倉谷 義数
滋賀県児童成人福祉施設協議会	理事	吉田 和浩
滋賀県特別支援教育研究会	部会長	今井 俊彦
滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会	部会長	井尻 正志
滋賀県立リハビリテーションセンター	事業推進係長	田所 愛理
滋賀県立精神医療センター	地域生活支援部・社会復帰支援係長	加藤 郁子
滋賀県立むれやま荘	社会リハビリテーション課長	出野津与志

運営協議会開催状況

開催年月日	審 議 事 項
令和3年10月14日	・第4期指定管理の方針について 経営方針、経営目標、事業実施計画について ・施設管理運営状況について 新型コロナウイルス感染症感染拡大による開所および事業の実施状況 滋賀県立障害者福祉センターにおける新型コロナウイルス感染症拡大 防止対策

(2) 福祉センター第三者委員会

公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が管理運営する滋賀県立障害者福祉センターで、提供する福祉サービスにおける利用者およびその家族等からの苦情に対し、社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な解決・改善に努めるため、第三者委員を設置している。

第三者委員

機 関・団 体		役職名	委員氏名
同志社大学	中立的立場	助 教	河西 正博
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	事業者代表	監 事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	利用者代表	理事長	崎山美智子

第三者委員会開催状況

開催年月日	審 議 事 項
令和4年3月4日	・コロナ禍におけるセンターの運営状況について ・令和3年度苦情、意見等の対応状況について ・アンケート調査結果について ・報告(令和4年度障害者福祉センター事業計画、改修工事等)

11. 研修状況等

(1) 研修受講等

①資格取得：公認上級スポーツ施設管理士（1名）

②研修参加状況

研 修 名	実施月	主 催 者	受講者数
職員研修 AED・人工呼吸	4月	当センター	16人
職員研修 水泳介助者研修	4月	当センター 業務課	7人
職員研修 水泳介助者研修	5月	当センター 業務課	7人
職員研修 水泳研修	6月	当センター 業務課	7人
職員研修 消防訓練	9月	当センター	16人
職員研修 人権研修	9月	当センター	15人
職員研修 実技研修(アーチェリー)	9月	当センター	10人
職員研修 実技研修(バスケットボール)	9月	当センター 業務課	6人
職員研修 実技研修(車椅子バスケット)	9月	当センター	8人
職員研修 実技研修(風船バレー)	9月	当センター	8人
職員研修 実技研修(ニュースポーツ)	9月	当センター	8人
甲種防火管理再講習	10月	(一財)日本防火・防災協会	1人
職員研修 震災訓練	11月	当センター	16人
プール衛生管理者講習会	12月	(公社)日本プールアメニティ協会	1人
職員研修 緊急時対応(トレーニング室・プール)	1月	当センター 業務課	10人
職員研修 全体緊急時対応	1月	当センター	15人
職員研修 水泳研修	1月	当センター	7人
ビジネスセミナー「やさしい簿記入門講座」	1月	(株)しがぎん経済文化センター	1人
職員研修 消防訓練	3月	当センター	16人

19件 延べ 175人

③県障害者スポーツ協会事業への派遣

内 容・場 所	期 日	人数
滋賀県障害者スポーツ大会 水泳競技（当センター）	10月9日	2人

④全国障害者スポーツ大会（三重県）

合宿・練習会・大会に役員コーチとして1人派遣 ※大会は新型コロナウイルスのため中止

(2) 研修生（実習）の受け入れ状況

目 的

実習は、実習生が当センターの機能および施設利用者のもつニーズに関して理解を深めるとともに、必要とする知識および実践の方法を習得し、もって障害者福祉の増進に寄与する。

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、両大学から実習中止の連絡を受け中止した。

【実習を予定していた大学】

- ・びわこ成蹊スポーツ大学 インターンシップ実習
- ・滋賀医科大学 早期体験学習・早期体験実習

Ⅱ クラブ活動

クラブ数 14

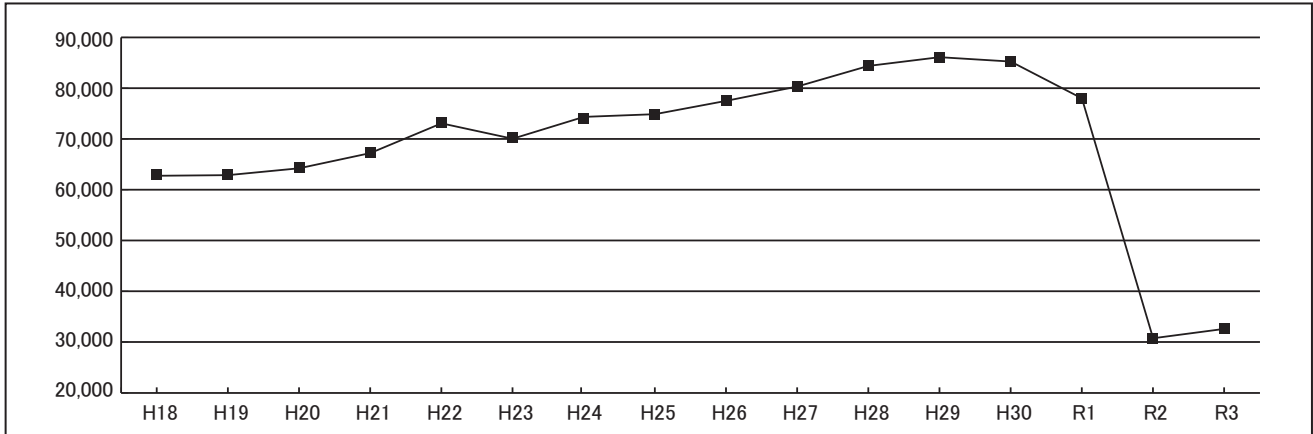
登 録 ク ラ ブ 名	セ ン タ ー で の 主 な 活 動 内 容
輪悠会（股関節障害者 水泳）	金曜日の午前練習
トップシャトル滋賀（バドミントン）	土曜日・日曜日・祝祭日の夜間練習 大会及び交流会を主催
LAKE SHIGA BBC （車椅子バスケットボール）	水曜日の夜間練習 近畿リーグ及び各大会参加
滋賀県ろうあ協会 卓球部	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀県H I T T Oアーチェリークラブ	土曜日・日曜日・祝祭日の午前練習 各大会参加・大会主催
I N F I N I （車いすツインバスケットボール）	金曜日の夜間練習
滋賀車いすテニスクラブ	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀県障害者フライングディスク協会	火曜日・金曜日の夜間練習 大会及び講習会主催
レイク・イーグルス（電動車椅子ホッケー）	金曜日の夜間練習 交流試合実施
びわこ卓球クラブ	月1回土曜日の午後練習 大会主催
グローバルハート（球身動）	木曜日の夜間練習 演武会開催
ホワイトドラゴンズ （精神障害者ソフトバレーボールクラブ）	土曜日の夜間練習 各大会参加
ライトニング滋賀（ボッチャ）	木曜日の夜間練習 各大会参加
M. S. T（車椅子卓球）	火曜日・水曜日・土曜日・日曜日の夜間練習 各大会参加

Ⅲ 利用状況

概要

令和3年度の当センター利用は、開所日254日で延べ人数32,591人となり、延べ累計人数は2,003,285人となった。また、新型コロナウイルス感染拡大のため、県の緊急事態宣言により、8月27日～9月30日を、また、職員の発熱により1月18日～1月20日(PCR検査結果：陰性)を臨時閉所した。2月10日から3月13日までは急激な感染拡大のためスポーツ施設を閉鎖し、利用者数は昨年に引き続き低い水準にある。

年度別利用者数



年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数
H2	29,454人※1	H10	55,086人	H18	62,770人	H26	77,487人
H3	54,302人	H11	65,934人	H19	62,867人	H27	80,350人
H4	57,264人	H12	65,877人	H20	64,231人	H28	84,387人
H5	54,889人	H13	62,747人	H21	67,227人	H29	86,091人
H6	52,373人	H14	60,325人	H22	73,063人	H30	85,248人
H7	53,751人	H15	61,378人	H23	70,035人	R1	77,991人※3
H8	48,350人※2	H16	60,179人	H24	74,331人	R2	30,770人※3
H9	52,743人	H17	64,297人	H25	74,897人	R3	32,591人※3

※1 開所月(8月)からの利用人数

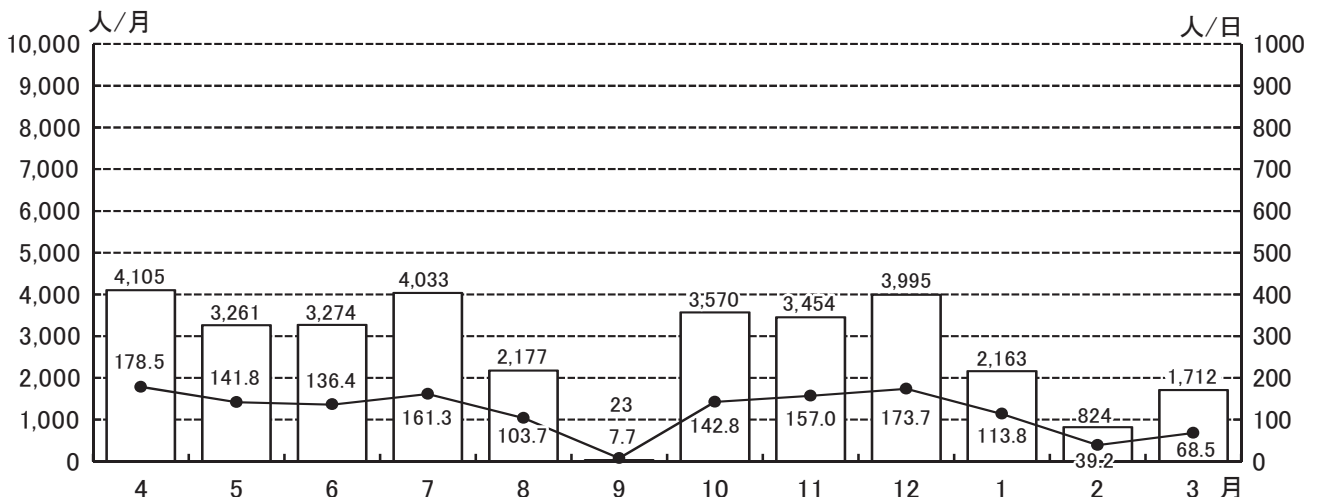
※2 病原性大腸 O-157 感染防止のためプール閉鎖

※3 新型コロナウイルス感染症による臨時閉所や利用制限

月別延利用状況および1日平均利用者数

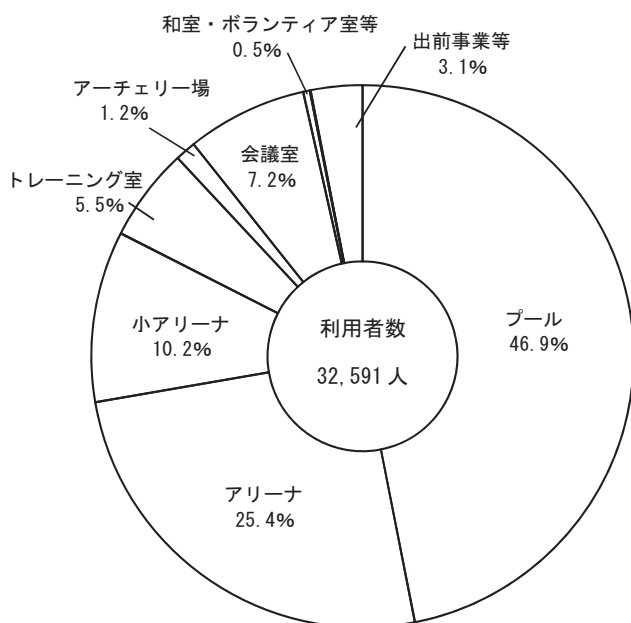
利用状況は、新型コロナウイルスの影響によりコロナ前(平成30年度)と比べ38.2%にとどまり、引き続き低い水準にある。月別にみると、コロナウイルスの感染状況に連動して増減しており、最も多い月は、4月の4,105人、最も少ない月は、1月の2,163人となっている。(スポーツ施設閉鎖の月を除く)

1日当たりの平均利用者は、年平均で128.3人、4月では最高の178.5人となっている。



施設別利用状況

施設利用状況をみると、プール 15,285 人 (46.9%) が最も多く、アリーナ 8,274 人 (25.4%)、小アリーナ 3,325 人 (10.2%) の順となっている。これを個人・団体別にみると、個人利用では、プール 10,043 人 (82.3%)、トレーニング室 1,798 人 (14.7%)、となり、団体では、アリーナ 8,243 人 (42.5%)、プール 5,242 人 (27.0%)、小アリーナ 3,310 人 (17.1%) の順となっている。

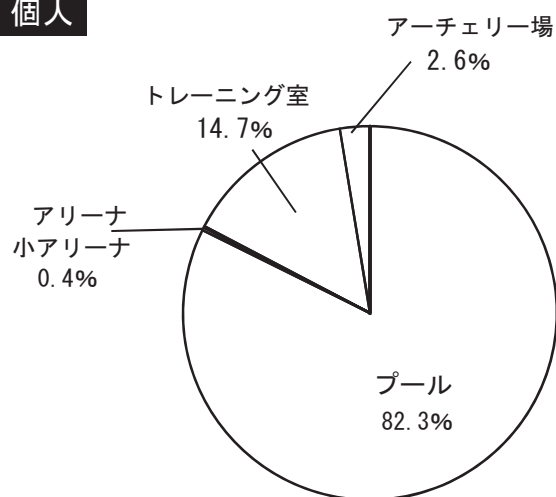


(単位: 人)

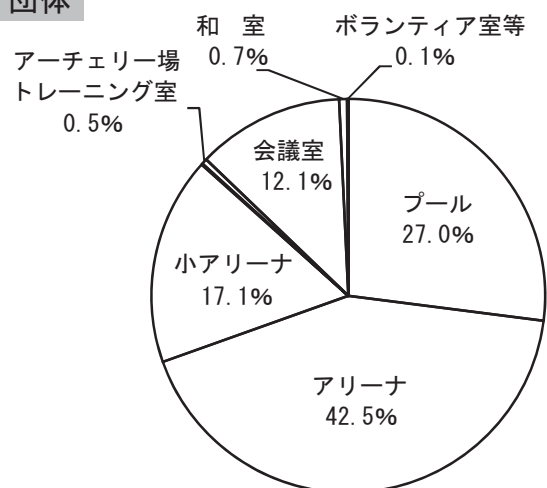
施 設	利用者数	利用割合
プー ル	15,285	46.9%
ア リー ナ	8,274	25.4%
小 ア リー ナ	3,325	10.2%
ト レー ニング 室	1,815	5.5%
アー チェリー 場	405	1.2%
会 議 室	2,342	7.2%
和 室	128	0.4%
ボ ラン ティ ア 室 等	17	0.1%
出 前 事 業 等	1,000	3.1%
合 計	32,591	100.0%

個人、団体別利用状況

個人



団体

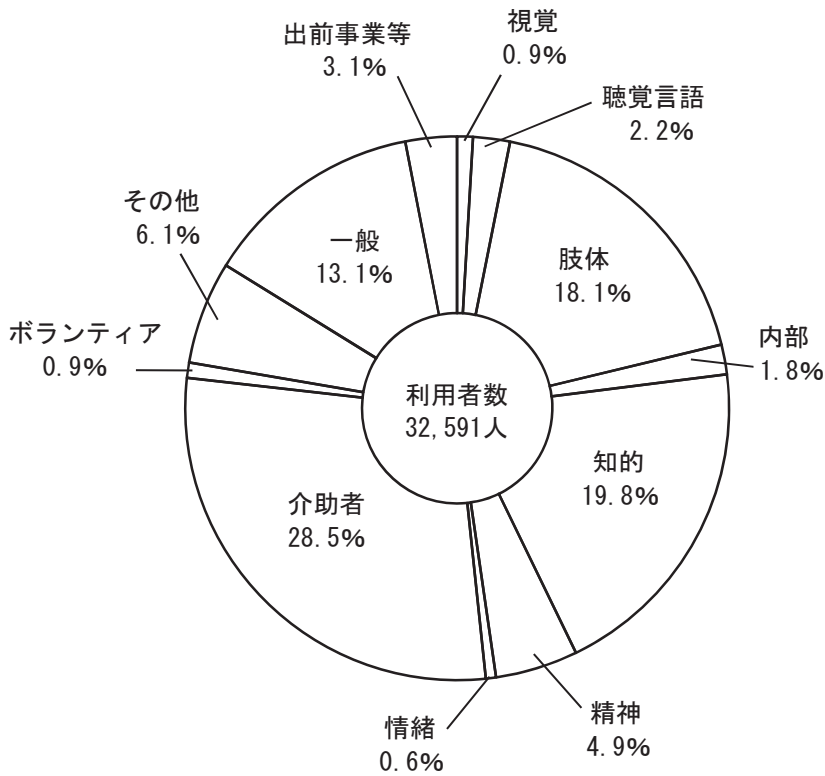


(単位: 人)

	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング室	アーチェリー場	会議室	和 室	ボランティア室等	合 計
個 人	10,043	31	15	1,798	315	0	0	0	12,202
団 体	5,242	8,243	3,310	17	90	2,342	128	17	19,389

障害別等利用状況

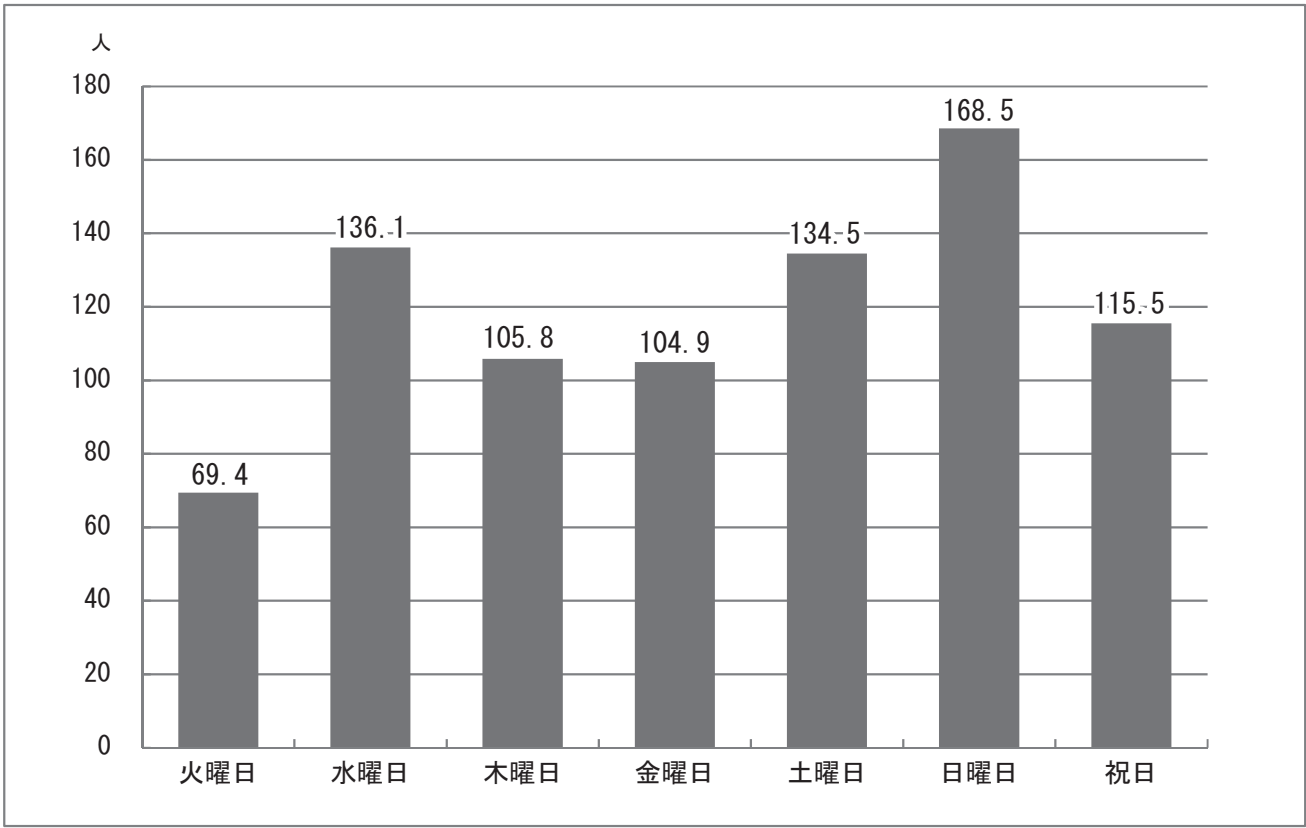
(単位：人)



障 害 等	利用者数	利用割合
視 覚	302	0.9%
聴 覚 言 語	714	2.2%
肢 体	5,906	18.1%
内 部	574	1.8%
知 的	6,455	19.8%
精 神	1,597	4.9%
情 緒	201	0.6%
介 助 者	9,274	28.5%
ボ ラ ン テ ィ ア	298	0.9%
そ の 他	1,995	6.1%
一 般	4,275	13.1%
出 前 事 業 等	1,000	3.1%
合 計	32,591	100.0%

曜日別利用状況

曜日別の1日当たりの平均利用状況をみると、日曜日 168.5 人、次いで水曜日 136.1 人となっている。



地域別・障害別利用状況(実人数)

障 害	個 人													利 用							貸 切 り					合 計
	大 津 市	彦 根 市	長 浜 市	近 江 八 幡 市	草 津 市	守 山 市	栗 東 市	野 洲 市	湖 南 市	甲 賀 市	高 島 市	東 近 江 市	米 原 市	湖 東	小 計	県 外	小 計	学 校 施 設	障 害 者 団 体	登 録 ク ラ ブ	セ ン タ ー 主 催	行 政	そ の 他	一 般	小 計	
視 覚	6	0	0	0	45	1	52	70	0	4	1	0	0	0	179	0	179	7	48	0	64	0	0		119	298
聴覚言語	41	0	1	58	14	25	0	0	4	0	0	0	0	0	143	0	143	23	276	140	82	0	0		521	664
肢 体	1,389	0	0	21	843	181	251	4	147	14	2	0	0	7	2,859	0	2,859	268	645	1,291	652	0	0		2,856	5,715
内 部	316	0	0	1	93	7	36	0	0	1	0	0	0	0	454	0	454	27	13	12	67	0	0		119	573
知 的	1,082	0	0	53	1,215	170	236	127	17	140	2	0	1	0	3,043	0	3,043	1,037	933	282	708	0	0		2,960	6,003
精 神	371	0	0	4	194	66	171	14	9	12	2	1	0	0	844	1	845	379	91	142	107	0	0		719	1,564
情 緒	40	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	0	45	154	2	0	0	0	0		156	201
介助者	1,184	0	0	63	1,250	273	327	186	21	122	4	1	2	6	3,439	0	3,439	1,380	1,402	1,470	893	0	0		5,145	8,584
ボランティア	15	0	0	0	65	0	0	0	0	2	0	0	0	0	82	0	82	0	0	0	140	0	0		140	222
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	151	711	20	498	100	160		1,640	1,640
一 般															1,113		1,113							2,450	2,450	3,563
合 計	4,444	0	1	200	3,724	723	1,073	401	198	295	11	2	3	13	12,201	1	12,202	3,426	4,121	3,357	3,211	100	160	2,450	16,825	29,027

月別・施設別利用状況

(単位：人)

月 施設	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	月平均
プール	2,224	1,654	1,655	2,039	775	0	1,643	1,433	1,894	1,070	196	702	15,285	1,274
アリーナ	979	777	761	882	798	0	890	967	1,072	446	239	463	8,274	690
小アリーナ	358	359	439	459	294	0	368	294	361	222	29	142	3,325	277
トレーニング室	211	208	183	228	36	0	219	218	203	162	46	101	1,815	151
アーチェリー場	50	77	64	49	13	0	82	27	3	3	1	36	405	34
会議室	257	186	121	194	221	23	222	304	273	214	94	233	2,342	195
和室	23	0	6	20	17	0	0	14	21	11	0	16	128	11
ボランティア室等	3	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	17	1
医務室	208	244	239	257	52	0	257	221	214	162	48	107	2,009	167
計	4,105	3,261	3,274	4,033	2,177	23	3,570	3,454	3,995	2,163	824	1,712	32,591	2,716
出前事業等	0	0	45	155	23	0	146	197	168	35	219	12	1,000	
開所日数	23	23	24	25	21	3	25	22	23	19	21	25	254	
日平均	178.5	141.8	136.4	161.3	103.7	7.7	142.8	157.0	173.7	113.8	39.2	68.5	128.3	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

施設別・障害別利用状況

(単位：人)

場所 障害	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング 室	アーチェリー 場	会議室	和 室	医務室	ボランティア 室等	合 計	構成比 (%)	月平均
視 覚	178	23	76	10	0	13	2	37	0	302	0.9%	25
聴覚言語	98	336	107	37	76	52	6	2	2	714	2.2%	60
肢 体	2,494	1,813	376	586	211	394	21	1,549	11	5,906	18.1%	492
内 部	230	58	14	225	0	47	0	240	0	574	1.8%	48
知 的	3,844	1,256	961	222	0	166	6	166	0	6,455	19.8%	538
精 神	545	515	171	326	0	40	0	9	0	1,597	4.9%	133
情 緒	5	154	1	40	0	1	0	1	0	201	0.6%	17
介助者	4,498	2,625	1,411	369	50	301	20	3	0	9,274	28.5%	773
ボランティア	98	116	17	0	0	67	0	0	0	298	0.9%	25
その他	57	484	108	0	8	1,261	73	0	4	1,995	6.1%	166
一 般	3,238	894	83	0	60	0	0	2	0	4,275	13.1%	356
計	15,285	8,274	3,325	1,815	405	2,342	128	2,009	17	32,591	100.0%	2,716
出 前 事 業 等										1000	3.1%	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

月別・障害別利用状況

(単位：人)

月 障害	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
視 覚	28	24	37	43	15	0	41	35	37	20	6	16	302
聴覚言語	111	97	61	87	38	1	73	84	82	36	7	37	714
肢 体	608	615	624	705	262	4	740	686	616	446	198	402	5,906
内 部	61	81	86	90	10	1	70	69	55	22	7	22	574
知 的	671	789	752	982	475	0	752	635	588	431	109	271	6,455
精 神	207	196	176	184	55	0	188	208	180	100	24	79	1,597
情 緒	10	17	25	22	10	0	28	33	24	17	3	12	201
介 助 者	867	1,048	1,095	1,311	612	0	1,166	969	967	625	197	417	9,274
ボランティア	8	19	21	27	6	0	61	45	53	6	1	51	298
そ の 他	257	141	122	201	185	17	177	215	291	153	53	183	1,995
一 般	1,277	234	230	226	486	0	128	278	934	272	0	210	4,275
計	4,105	3,261	3,274	4,033	2,177	23	3,570	3,454	3,995	2,163	824	1,712	32,591
出前事業等	0	0	45	155	23	0	146	197	168	35	219	12	1,000

曜日別・月別利用者状況

(単位：人)

曜日 月	火	水	木	金	土	日	祝	出前事業等	計
4	315	622	390	609	769	1,233	167	0	4,105
5	79	482	365	354	762	814	405	0	3,261
6	203	829	515	431	668	583	0	45	3,274
7	173	676	556	511	872	780	310	155	4,033
8	106	454	294	162	282	836	20	23	2,177
9	0	0	7	0	8	8	0	0	23
10	140	677	473	523	854	757	0	146	3,570
11	260	402	470	504	631	653	337	197	3,454
12	162	646	489	611	721	1,125	73	168	3,995
1	77	229	359	349	451	546	117	35	2,163
2	39	67	82	152	132	133	0	219	824
3	112	224	339	198	304	451	72	12	1,712
計	1,666	5,308	4,339	4,404	6,454	7,919	1,501	1,000	32,591
開所日数	24	39	41	42	48	47	13		254
一日平均	69.4	136.1	105.8	104.9	134.5	168.5	115.5		128.3

Ⅳ 利用者 と 支 え る 人 の 声

200 万人目！

岡部 さゆり

センターのプールに通うようになって、9 年。脳性麻痺で寝たきりの息子は、陸の上では寝返りもしないけれど、水の中では気持ち良さそうに体を動かします。あまり動かない日は水に漂います。水圧は体に刺激を与えるそうです。

息子が成長し抱っこ移動が大変になった頃、プールサイドまでセンターの車いすを使用するようになりました。職員さんに「角度の浅い車いすがあれば」とお話ししたところ、本当に子ども用の車いすを 2 台も購入してくださいました。

そんなセンターの心配りと居心地の良さからプールに通い続けることができ、息子は風邪もひかず元気に過ごしてきました。でも思春期になり呼吸状態が悪くなり、気管切開の話がでてきました。オベをすれば、もうプールに通うことはできません。

つらい思いを抱えながらプールに来たある日のこと、センターの「200 万人目の利用者」だと、職員の皆様が総立ちでお祝いをしてくださいました。200 万人目！その数字に歴史を感じるとともに、息子の顔よりも大きな立派な花束に「がんばって通ったよね。」と言われたような、報われた気持ちになりました。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

憩いと夢を叶える場所

清水 千浪

福祉センターを初めて訪れたのは 2016 年 6 月。まだ 6 年！？と思える程、大変濃い時間を過ごさせて頂き、改めて施設の皆様に感謝申し上げます。

9 年前に褐色細胞腫という病気で障害を持ち、突然の生活の変化に戸惑いながらも 2 年のリハビリを経て仕事に復帰。知人のパラ選手の勧めと、陸上やサッカー等スポーツは以前から生活の一部だった為、自分に合う競技を探し“カクテル”という女子車いすバスケットボールチームを見学。関西のノリ&監督の指導法に惚れ入団。しかし、練習場所が大阪か京都！最初は通うことが難しく悩んでいた時“レイク滋賀”という男子チームを紹介してもらいセンターを初訪問。練習ではスピードやパワープレーに魅了されたことを思い出します。

練習に参加していくと女子チームではできないポジションの経験や、バスケだけでなく地元の学校訪問などを通して、障がい当事者としてできる D & I^{*}などの取り組みにも積極的に参加できるようになりました。後天的に障がいを持つと、できていたことができない悔しさが消えません。それを今ではブラックジョークとして言い合える仲間ができ、不幸ではなく不便なだけだと思えるきっかけになりました。数年前から男子の大会に女子も参加できるようになり、今では天皇杯や国体出場と一緒に目指すチームメイトに！その甲斐もあり、2020 東京パラリンピック日本代表に選出され 6 位入賞という一つの目標を達成できました。

最初は、勝手なイメージで障がい者施設は暗い場所なのかと思っていましたが、施設のスタッフさんの明るさと清潔で安全な施設でそんな考えもすぐ吹っ飛びました。これからも憩いと夢を叶えるための場所として利用させていただきます。宜しくお願いいたします！

※ D&I…ダイバーシティ&インクルージョン

多様性（ダイバーシティ）を認め、受け入れて活かすこと（インクルージョン）

キラキラ笑顔が見たい！

島村 直美

ある日、プールで大はしゃぎして、キャーキャー言って笑っている子ども達に出会いました。「これこれ！こんな笑顔のお手伝いがしてみたい！」と強く思った瞬間でした。しばらくして、サマースクールの水泳のお手伝いで、センターに来させていただくようになりました。サマースクールでは、水がかかって大喜びする子や、「壁タッチ」をすることで25mの達成感を味わう子、浮き輪で気持ちよさそうにプカプカ浮いている子、水の浮力を使って歩く練習をする子。そんな子どもたちと、センターのプールで一緒にいることがとても楽しかったです。最近では、親子水泳等のアシスタントもさせて頂くようになりました。コロナで回数が減った中、子ども達はお家の人と一緒に来てくれます。恥ずかしそうにもじもじする子、水がちょっぴり怖い子、もぐるのが大好きな子。いろんな子がやってきてくれました。スタッフの先生方に介助のやり方を教わり、やる気が出る魔法の言葉をパパッとかけて水に入ります。教室が終わるとミーティングをし、より良い関わり方を皆で考えました。子ども達はというと、顔を水につけることが苦手だった子ももぐれるようになったり、背泳ぎなら顔に水がかからないからと、気持ちよさそうに背泳ぎスタイルですいすい進むのを楽しめている子もいました。子ども達からは、キラキラ笑顔と「できた！」のえっへん顔をたくさん見ることができました。これからもそんな笑顔を引き出せるお手伝いをしていきたいです。

自分で選ぶ大切さ

草津市発達支援センター 湖の子園

草津市発達支援センター湖の子園では、市内の療育が必要な未就園の子どもを対象に週5日・2日の療育を行っています。その中で水曜日には県立障害者福祉センターでプール療育を行い、浮力や水圧を利用して自由に身体を動かすことで運動機能の発達を促し丈夫な身体づくりをすることや、親子のふれあいをもつこと、水の中で楽しい経験をするなどなどをねらいに進めています。

子ども達は、初めての大きなプールやいつもと違う場所に緊張する姿も見られますが、回数を重ねることでその子なりのペースで場所に慣れ、浮く感覚を楽しんだり、活動に期待を持ったりする姿が見られます。また、月に1回程度センターの先生による指導をお願いしています。普段のプール療育からあたたかい声かけや見守りをしていただき、子ども達の姿から設定や内容を組み立ててくださるので、子ども達も見通しが持ちやすく、積極的にやってみようとする姿が見られます。

ある時、水中サーキットの活動中に、大人がしっかり子どもの手をつないでいる場面がありました。しかし、「大人は手を差し出すだけで良い。自分で進むか、手をつないで進むかは子どもが選ぶこと。大人は子どもが選べるように準備しておくことが大切」であると教えて頂きました。つい「やってあげなくちゃ」と先回りしがちですが、子どもが自分で選んでしようとする姿を尊重することは、日々の療育においても大切なことだと振り返る機会になりました。

V 施 設 の 概 要

1. 設置目的

心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、心身障害者の教養の向上、健康増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る。

2. 建設の経緯

- (1) 昭和61年 7月11日 身体障害者福祉センターA型検討委員会設置
- (2) 昭和62年 3月 身体障害者福祉センターA型整備の基本構想の結果報告
- (3) 平成元年 7月 3日 建築工事着工
- (4) 平成 2年 4月 1日 滋賀県立障害者福祉センター開設準備室設置
- (5) 平成 2年 6月27日 建築工事完工
- (6) 平成 2年 8月 1日 滋賀県立障害者福祉センターに名称変更
- (7) 平成 2年 8月 4日 開所式
- (8) 平成 2年 8月 7日 一般開放
- (9) 平成 8年11月 4日 多目的トイレ新築工事着工
- (10) 平成 9年 3月27日 多目的トイレ新築工事完工
- (11) 平成 9年 4月 1日 多目的トイレ供用開始
- (12) 平成14年 2月20日 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置及び多目的トイレへオストミー対応化工事(1ヶ所)

3. 建設の内容

- (1) 所在地 滋賀県草津市笠山八丁目 5 番 130 号
- (2) 規 模 敷地面積 12,679 m²
建築面積 4,067.676 m² 延床面積 3,970.219 m²
- (3) 構 造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）勾配屋根平屋建
- (4) 建築工事費 約 12 億 2 千万円
- (5) 障害者への配慮
 - ア 正面玄関等に誘導チャイム
 - イ 玄関ホール等に点字案内施設図
 - ウ 所内外に点字誘導ブロック
 - エ 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置
 - オ 屋外からの出入口に感知式自動開閉扉
 - カ 各室出入口に半自動開閉扉
 - キ 廊下に所内案内点字付き手すり
 - ク ナースコール（プール、アリーナ、トイレ、更衣室等から事務室へ）
 - ケ 会議室に集団補聴設備（テレホンコイル付き補聴器受信可能）
 - コ 身体障害者に配慮した便器・洗面台
 - サ 多目的トイレに自動扉・収納式多目的シート
オストミー対応・（人工肛門・膀胱造設者） 1 ヶ所

シ 多目的トイレ全洋式化（内ウォシュレット 11 台設置）
ス 冷暖房設備、床暖房設備（プールサイド、プール男女更衣室）
セ 車椅子で飲める水飲み器
ソ 文字放送地上デジタルテレビ
タ 公衆ファックスの設置（平成 8 年）
チ 全館にスプリンクラーによる消火設備
ツ 玄関及び観覧ホールに AED 設置
テ アーチェリー場に雨よけ屋根設置

(6) 施設の内容

施 設 名	面積(m ²)	内 容
ア リ ー ナ	809.47	バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン等のライン区画 各種スポーツ用具、バスケットボール用電光掲示板、放送設備等設置、冷暖房設備完備
		付帯施設：男女更衣室、車椅子置場、器具庫
小 ア リ ー ナ	135.71	卓球（サウンドテーブルテニス・一般）、遊具設置
トレーニング室	95.36	トレッドミルやエアロバイク等 10 種類の運動トレーニング器具を設置
温 水 プ ー ル	750.76	FRP 製 25 m × 13 m（6 コース）、水深 1.35m ～ 1.55 m 日本水泳連盟公認、水温 30℃、室温 32℃に設定 車椅子用入水スロープ、床暖房、プールフロアー（2 コース）、水中スピーカー、水質自動監視装置設置
		付帯施設：採暖室、男女更衣室、個室更衣室、身障者用トイレ、観覧ホール、器具庫
会 議 室	158.59	100 人収容、スライディングドアにより 3 室に間仕切り可能、集団補聴設備、ビデオプロジェクター設置
和 室	40.90	10 畳 × 2 室、文化・教養活動用として利用
医 務 室	13.86	応急処置、医療相談、利用者の健康相談に利用
ボランティア室	51.32	ボランティア養成・交流・障害者団体交流用として利用
ラ ウ ン ジ	67.85	障害者福祉やスポーツに関する専門図書や資料を備え、障害者の情報提供の場、談話室として利用
そ の 他		多目的ホール、事務室
屋外アーチェリー場		9 的 (30m、50m)
駐 車 場		64 台（うち車椅子用 14 台）

- (7) 令和3年度の主な改修工事
- ア 会議室、和室、多目的トイレ空調改修工事
 - イ 給湯管改修工事
 - ウ 館内LED化工事
 - エ 正面歩道誘導ブロック改修工事
 - オ アーチェリー場30m的場改修工事等

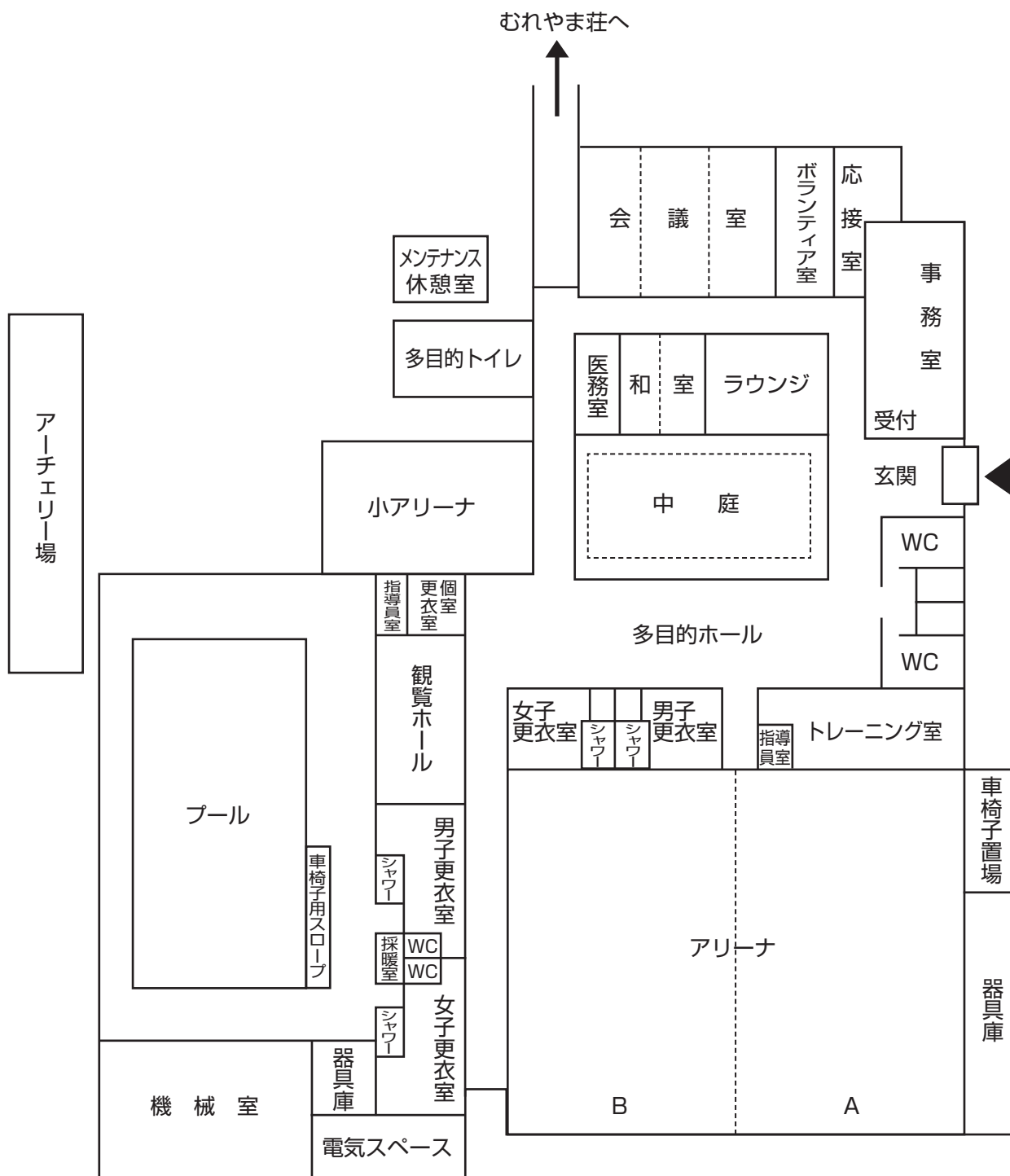
4. 管理・運営

- (1) 設置主体 滋賀県
- (2) 運営主体 指定管理者 公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
- (3) 休 所 日
- ・ 月曜日（休日である場合を除く。）
 - ・ 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日である場合を除く。）
 - ・ 12月29日～翌年1月3日
 - ・ 上記のほか管理者が定めた日
- (4) 開所時間 午前9時30分～午後8時30分
- (5) 利用時間

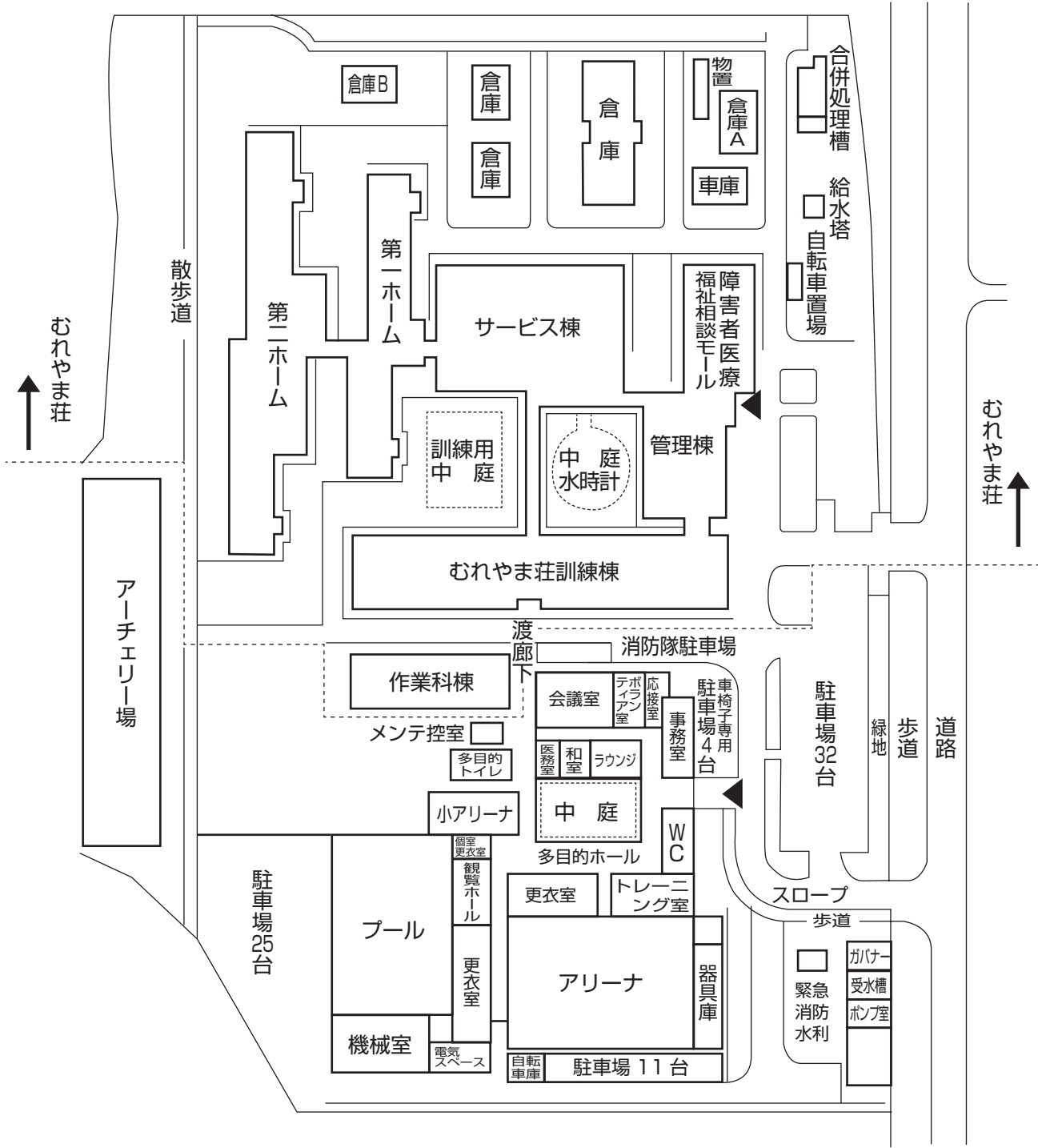
区 分	全 施 設
午前の部	9時30分 ～ 12時00分
午後の部	13時00分 ～ 16時30分
夜間の部	17時30分 ～ 20時30分

- (6) 利用対象者
- ア 身体障害者手帳所持者
 - イ 療育手帳所持者
 - ウ 精神障害者保健福祉手帳または精神障害の状態に関する証明書所持者
 - エ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者
 - オ 小児慢性特定疾病医療受給者証所持者
 - カ 前記ア～オに掲げる者とその障害が同程度と認められる者
 - キ 前記ア～カに同行してきた介助者
 - ク 登録ボランティア（障害者等の利用を妨げない程度）
 - ケ 前記ア～カに掲げる障害者以外の者（障害者等の利用を妨げない限度において利用可）

平 面 図



配置図



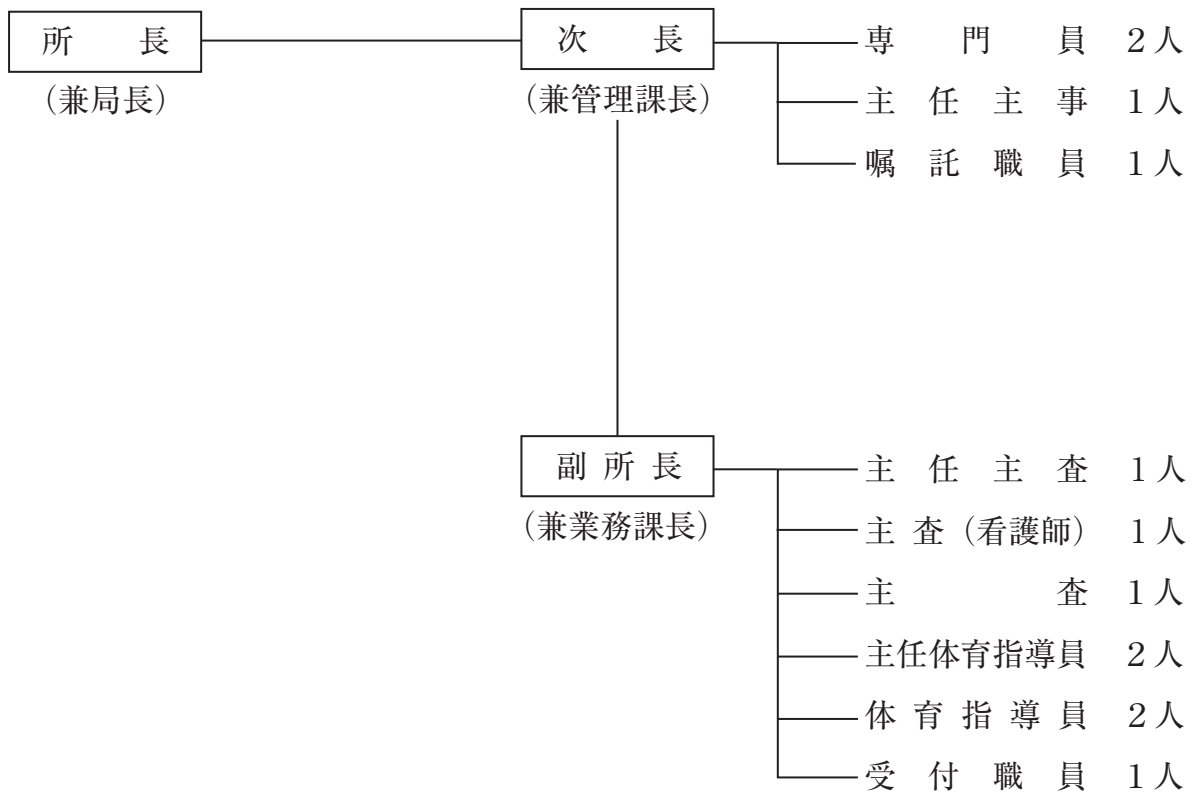
Ⅵ 組 織

1. 組織図

当センターは、公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が滋賀県から指定管理者としての指定を受けて、管理運営をしている施設です。

職員体制は表のとおりとなっています。

(令和4年4月1日現在)



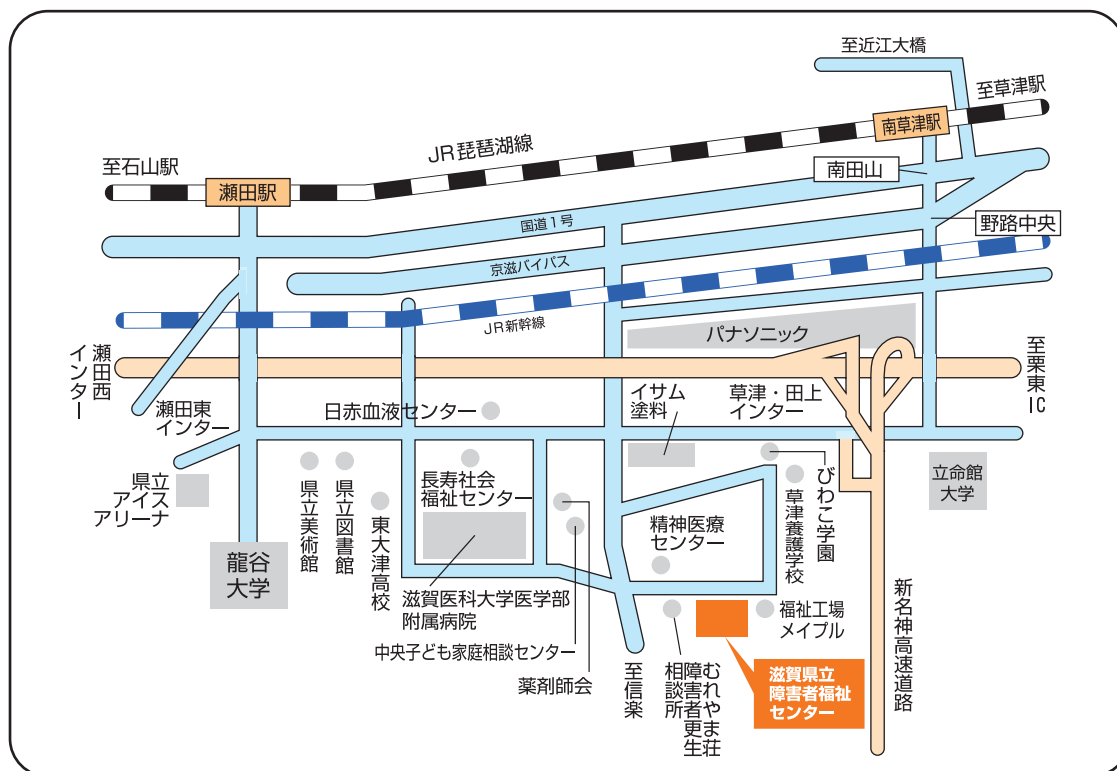
滋賀県立障害者福祉センター

〒525-0072 草津市笠山八丁目5番130号

TEL 077(564)7327 FAX 077(564)7641

<http://www.shiga-fukushi-center.com/>

E-mail webmaster@shiga-fukushi-center.com



●電車での来所

JR 南草津駅(バスのりば⑥番)から 総合福祉センター前下車

※ JR 南草津駅と障害者福祉センター間、路線バス(ノンステップ)が運行されています。(帝産湖南交通)

●高速道路利用の場合

名神・新名神高速道路 草津・田上インターから約3分